

积迦新田遺跡 2

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書4

平成29年3月

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第418集

しゅ か しん でん
釈迦新田遺跡 2

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書4

平成 29 年 3 月

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所による首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴って実施した、茨城県猿島郡五霞町釈迦新田遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、平成21・22年度の調査に引き続き、縄文時代の遺物包含層、中世の墓域に関連する遺構が明らかになりました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知るうえで、欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所に厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、五霞町教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野口 通

例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成27年度に発掘調査を実施した、茨城県猿島郡五霞町大字釈迦字地藏前2411-1番地ほかに所在する釈迦新田遺跡あしよひの発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成27年9月1日～平成27年10月31日
整理 平成28年9月1日～平成28年11月30日
- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 駒澤 悦郎
次席調査員 作山 智彦
調査員 大久保芳紀
- 4 整理及び本書の編集・執筆は、整理課長後藤一成のもと、調査員大久保芳紀が担当した。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、 $X = + 14,160 \text{ m}$ 、 $Y = - 8,240 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1 a) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P-ピット PG-ピット群 SA-柱穴列 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡 SE-井戸跡
SK-土坑 HG-遺物包含層

遺物 DP-土製品 Q-石器・石製品

土層 K-攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 遺構の主軸は、長軸(径)方向とみなした。長軸・長径方向は、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 $N - 10^\circ - E$)。

- 7 今回の報告分で、整理段階で遺構名を変更したものは以下のとおりである。

変更 SK241 → SK327, SK242 → SK328, SK248 → SA 3 P 2, SK311 → 第5号火葬施設, SD24 → SD 1,
PG 6 P 85 → SB 2 P 1, PG 6 P 93 → SB 2 P 2, PG 6 P 89 → SB 2 P 3, PG 6 P 97 → SB 2
P 4, PG 6 P 90 → SB 2 P 5, PG 6 P 84 → SB 3 P 1, PG 6 P 86 → SB 3 P 2, PG 6 P 92 →
SB 3 P 3, PG 6 P 88 → SB 3 P 4, PG 6 P 95 → SB 3 P 5, PG 6 P 90 → SB 3 P 6, PG 6
P 96 → SB 3 P 7

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
釈迦新田遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 土坑	11
(2) 遺物包含層	16
2 中世の遺構と遺物	21
(1) 火葬施設	21
(2) 土坑	22
3 近世の遺構と遺物	28
(1) 土坑	28
(2) 溝跡	28
4 その他の遺構と遺物	33
(1) 掘立柱建物跡	33
(2) 井戸跡	36
(3) 土坑	36
(4) 溝跡	41
(5) 柱穴列	41
(6) ビット群	45
(7) 遺構外出土遺物	47
第4節 まとめ	51
写真図版	PL 1～PL 6
抄 録	
奥 付	
付 図	

釈迦新田遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

釈迦新田遺跡は、猿島郡五霞町の北部に位置し、利根川右岸の標高10mほどの低台地上に立地しています。首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に先立ち、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成27年度に、遺跡の中央部にあたる1.351㎡について発掘調査を行いました。



調査の内容

平成21・22年度に引き続き3回目の調査になります。調査の結果、縄文時代(約4,500～4,000年前)の土坑8基、遺物包含層1か所、中世(約700～400年前)の火葬施設1基、土坑30基、近世(約400～150年前)の溝跡4条などを確認しました。主な出土遺物は縄文土器(深鉢)、土師質土器(小皿)、陶器(皿・卸皿・天目茶碗・播鉢・瓶カ)、瓦質土器(焙烙・火鉢)、石器(鏃・石皿・磨石・凹石・砥石・剥片)、土製品(円筒埴輪・羽口)などです。



調査区遠景(東上空から)



調査区全景



中世の土坑



縄文時代の土坑から遺物が出土した様子



縄文時代の土坑から出土した土器

調査の成果

縄文時代の遺物包含層からは、多くの縄文土器が出土しました。土器片を観察すると、角が取れたものや表面が磨滅したものが多く、出土している土器から中期末葉に斜面に遺物を含んだ土が流れ込んで形成されたと考えられます。

中世の遺構は、墓坑と考えられる長方形の土坑や火葬施設を確認し、前回の調査と同様に、墓域として利用されていたことが分かりました。

近世には耕作地になっていたと考えられ、地割を目的とした溝跡を確認することができました。

また、円筒埴輪の破片が1点見つかりました。小さな破片ですが、近くに古墳が存在していた可能性があります。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成16年12月15日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内における埋蔵文化財の所在の有無、及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成17年2月28日に現地踏査を、平成26年8月21日及び10月9日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成26年10月29日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに、事業地内に釈迦新田遺跡が9所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成26年12月25日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成27年1月15日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事前手に発掘調査を実施しよう通知した。

平成27年2月27日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成27年3月6日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに、釈迦新田遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成27年9月1日から平成27年10月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

釈迦新田遺跡の調査は、平成27年9月1日から10月31日までの2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程 \ 期間	9月			10月		
調査準備 表土除 遺構確 認						
遺構調査						
遺物洗 浄注 写真整 理						
撤収						

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

釈迦新田遺跡は、茨城県猿島郡五霞町大字釈迦字地藏前 2411 - 1 番地ほかに所在している。

五霞町は、茨城県の南西部、利根川以南に位置しており、北を利根川、東を江戸川、西から南にかけてを権現堂川によって南北約 4.3km、東西約 5.0km に区画されている。町域の地形は、利根川及び中・小河川によって開析された低地と五霞台地と呼ばれる低位段丘群によって構成されている。五霞台地は、猿島台地の南西部が江戸時代の利根川東遷により、切り離されたことで形成された低位段丘群である。町内の標高は、おおむね北西部から南東方向に標高が低下する。最高標高は 17.5 m、最低標高は 9 m で、平均標高は約 12 m である。

利根川流域に広がる低台地の地質は、新生代第四紀沖積層が中心で、約 1 万年前までの新しい時代の堆積層によって形成されている。また、この沖積層の下には第四紀洪積層後期に形成された洪積層が堆積しており、下層から竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層に分類される¹⁾。

五霞町周辺の現在の利根川流域には、沖積低地と洪積台地が広がっている。利根川の北側では、利根川の支流によって開析された谷津が広がり、谷津から洪積台地にかけて遺跡が存在している。また、利根川の南側は、広大な沖積低地が広がり、その中に点在する標高 10 ~ 13 m ほどの低台地上に遺跡が確認されている。当遺跡は、現在の利根川が流れる低地に面した標高 10 m ほどの低台地上に位置している。

遺跡周辺の土地利用状況は主に耕作地と宅地であり、遺跡の現況は宅地、山林及び地藏堂跡であった。

第2節 歴史的環境

ここでは、釈迦新田遺跡が所在する五霞町周辺の遺跡²⁾を中心に概要を述べる。

旧石器時代は、土塔貝塚（江川貝塚）(18) で石器集中地点が確認され、ナイフ形石器などが確認されている³⁾。現在の利根川以北では、羽黒遺跡 (65) や日下部遺跡 (67) で細石刃核や剥片が確認されている⁴⁾。

縄文時代の五霞町周辺は、縄文海進により南から奥東京湾が、東から古鬼怒湾が奥深く浸入して、当時の海域に半島状に延びる猿島台地（五霞台地）の先端部に位置している。町内では、台地縁辺部に多くの遺跡や貝塚が分布している⁵⁾。

これまでの調査により、寺山遺跡 (51)、宿北遺跡 (58) で早期の土器を伴う土坑が確認されている⁶⁾。海進が最も進んだ前期は、遺跡数が多くなる時期で、居住に適した環境であったと想定される。当期の遺跡は、町域の東側に遺跡の集中が見られ、山王山貝塚 (16)、土塔貝塚（江川貝塚）(18)、山王裏 B 遺跡⁷⁾などが確認されている。土塔貝塚（江川貝塚）で確認された黒浜・諸磯 a 式期の地点貝塚は鹹水種によって構成され、奥東京湾沿岸地域であったと考えられる⁸⁾。その他に、坂間遺跡 (34)、石畑遺跡 (40)⁹⁾、宿東遺跡 (59)¹⁰⁾などが確認されている。中期は、町域の北部に遺跡が多く立地する傾向が見られる。これは、海退により、干潟域が広がったために、居住域が移動したことに伴うと考えられている。本遺跡のほかに、榎戸遺跡 (2)、小手指貝塚 (42)、上原遺跡 (47)¹¹⁾などが確認されている。後期には、海退が進み、周辺海域は汽水域に変化したことが、冬木 A 貝塚 (22)¹²⁾ や土塔貝塚（江川貝塚）¹³⁾ の調査から判明している。遺跡の立地も海岸線を追うように、南側に移動し、石畑遺跡¹⁴⁾ や土塔貝塚（江川貝塚）など前期の遺跡と同じ地域に多く見ら

れるようになる。晩期に入ると、冬木B貝塚(21)では、汽水種とともに淡水種も確認されており¹⁵⁾、さらに海岸線は後退し、河川の下流域の三角洲が出現する地形に変化し、淡水化していったと考えられる。

古墳時代の遺跡は、同所新田遺跡(13)で前期の方形周溝墓1基¹⁶⁾、寺山遺跡で中期の竪穴建物跡5棟や後期の古墳1基、瀬沼遺跡で後期の竪穴建物跡1棟¹⁷⁾を確認している¹⁸⁾。また、元栗橋地区の三島神社古墳(28)、痕泉塚古墳(35)と、川妻・小手指地区の伊勢塚古墳(46)、上原古墳(48)、穴葉師古墳(54)の二つの大きな古墳の分布のまとまりが見られる¹⁹⁾。

中世に入り、五霞町を含めた古利根川、太日川流域には、下河辺荘が成立する。現在の古河市から越谷市北部まで南北に長い領域を含む下河辺荘は、野方・河辺・新方の三地域に区分されていたことが知られ、当町域はこのうちの河辺に属していた。領主として、当初は秀郷流小山氏の庶流下河辺氏が、宝治合戦(1247年)以降には北条氏一族が支配していた。室町時代に入ると、鎌倉府の御料所の一つとして支配される²⁰⁾。足利成氏が古河に移座すると、鎌倉から奥州へ延びる奥大道が通過し、古利根川・常陸川の水上交通の要所でもあるこの地域を治める重要性は高まるようになる。五霞町には野田氏の居城である城山城跡(栗橋城跡)(30)、古河市には築田氏一族の居城である水海城跡(70)、千葉県野田市には築田氏嫡流家の居城である関宿城跡、埼玉県幸手市には一色氏の居城と考えられる陸塚(幸手市Na3遺跡)など、古河公方の重臣による城館が設けられたことが知られている。また、町内で発掘調査が行われた当期の遺跡としては、石畑遺跡で方形竪穴遺構14基などが²¹⁾、新田遺跡(15)で堀跡1条や方形竪穴遺構8基、地下式坑3基が²²⁾、瀬沼遺跡で墓坑11基や火葬施設41基が²³⁾、桜井前遺跡で火葬施設4基や方形竪穴遺構9基、地下式坑4基などが²⁴⁾それぞれ確認され、中世の集落や墓域が明らかになっている。また、羽黒遺跡では河川工事の工事分担を示した表示札と考えられる木簡が出土している²⁵⁾。

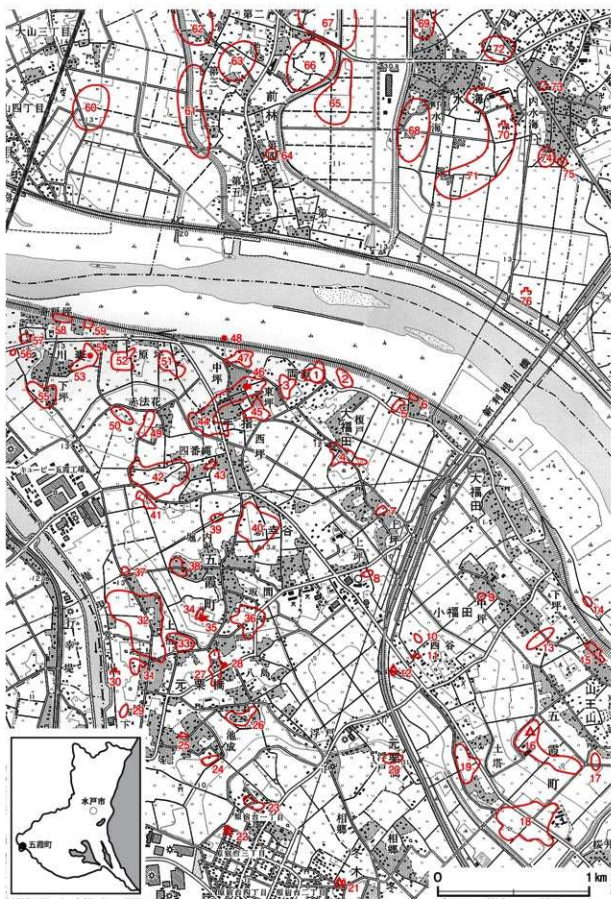
江戸時代初頭、「利根川東遷」と呼ばれる大規模な河川改修工事の一環で元和7年(1621年)から三度にわたる赤堀川開削により、奥州から鬼怒川を下り、さらに利根川や江戸川を下って江戸へと至る輸送ルートが成立した。経由地としての役割を担うようになる対岸の境町に位置する境河岸は、正保期(1644～1647年)に関宿城の城下町として機能するようになった²⁶⁾。一方、五霞町周辺では、洪水被害が頻発するようになった²⁷⁾。町内の当期の遺跡として、新田遺跡で水塚を配置した屋敷跡が、上原遺跡で輪宝墨書土器が出土した掘込地業遺構などが、殿山塚(6)で塚が調査されている²⁸⁾。江戸時代後期では、同所新田遺跡において製鉄関連遺構が確認され、製鉄もしくは鉄製品の再加工を行っていた工人集団の存在が推測される²⁹⁾。さらに、瀬沼遺跡からは江戸時代後期の船着場が確認され³⁰⁾、水上交通が日常生活や経済活動の中で重要な位置を占めていたことが推測される。

※ 文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。なお、本章は、既刊の『茨城県教育財団文化財調査報告』第352集をもとに、改題したものである。

註

- 1) 成島一也「石畑遺跡 12 県単道改第 12 - 03 - 261 - 0 - 052 号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 192 集 2002 年 3 月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図(地名編・地図編)』茨城県教育委員会 2001 年 3 月
- 3) 須藤正美「土塔貝塚 瀬沼遺跡 一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 289 集 2008 年 3 月
- 4) 総和町史編さん委員会『総和町史 通史編 原始・古代・中世』2005 年 7 月

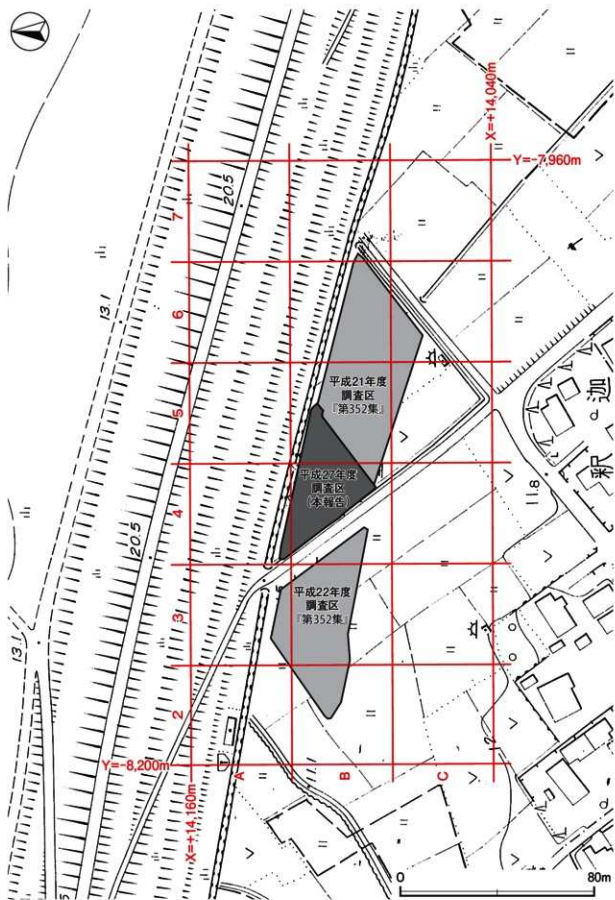
- 5) 五霞町史編さん委員会『町史 五霞の生活史 水と五霞』2010年3月
- 6) 近江屋成隆「宿北遺跡 宿東遺跡 寺山遺跡 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第383集 2014年3月
- 7) 佐々木守・小林正紀「山王裏B遺跡 町道55号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」五霞町教育委員会 2003年9月
- 8) 註3に同じ
- 9) a 瓦吹堅・橋本勉・藤原均「石畑遺跡-I地区発掘調査報告-I」茨城県猿島郡五霞町教育委員会 1977年3月
b 註1に同じ
- 10) 註6に同じ
- 11) 佐藤一也「新田遺跡 上原遺跡 殿山塚 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第395集 2015年3月
- 12) 高村勇 根本康弘「冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 冬木A貝塚 冬木B貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告』第IX集 1981年3月
- 13) 註3に同じ
- 14) 註9に同じ
- 15) 註12に同じ
- 16) 桑村裕「同所新田遺跡 清水遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第290集 2008年3月
- 17) 註3に同じ
- 18) 註6に同じ
- 19) 五霞町史編さん委員会『町史 五霞の生活史 地誌』2013年3月
- 20) 註5に同じ
- 21) 註9に同じ
- 22) 註11に同じ
- 23) a 註3に同じ
b 本橋弘巳「同所新田遺跡2 瀬沼遺跡2 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第312集 2009年3月
- 24) 桑村裕「桜井前遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第288集 2008年3月
- 25) 駒澤悦郎「羽黒遺跡 一般河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第202集 2003年3月
- 26) a 註5に同じ
b 境町史編さん委員会『下総 境の生活史 国説・境の歴史』2005年3月
- 27) 註5に同じ
- 28) 註11に同じ
- 29) a 註16に同じ
b 註23 bに同じ
- 30) 註3に同じ



第1図 釈迦新田遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「境」・「鴻巣」）

表1 釈迦新田遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	釈迦新田遺跡	○					○	39	絡塚遺跡	○						
2	榎戸遺跡	○						40	石畑遺跡	○					○	○
3	元宿遺跡	○				○		41	内肥土遺跡	○						
4	稲荷原遺跡	○						42	小手指貝塚	○						
5	殿山遺跡	○			○			43	小手指下宿	○			○			
6	殿山塚						○	44	台遺跡	○			○	○	○	
7	東中村遺跡	○						45	小手指上宿					○		
8	福田遺跡	○						46	伊勢塚古墳				○			
9	西上手遺跡						○	47	上原遺跡	○						○
10	八幡西遺跡	○						48	上原古墳				○			
11	土塔塚遺跡						○	49	赤法花遺跡	○						
12	診療所前貝塚	○						50	新久遺跡	○						
13	同所新田遺跡	○			○	○	○	51	寺山遺跡	○			○			○
14	原山遺跡							52	大崎遺跡	○						○
15	新田遺跡	○					○	53	大崎穴薬師遺跡	○						○
16	山王山貝塚	○						54	穴薬師古墳				○			
17	西新畑遺跡	○						55	堤外遺跡	○			○			○
18	土塔貝塚(江川貝塚)	○	○			○		56	沼ノ台遺跡				○			
19	土塔遺跡	○						57	墓化遺跡							○
20	浮戸遺跡	○						58	宿北遺跡	○					○	○
21	冬木B貝塚	○						59	宿東遺跡	○					○	○
22	冬木A貝塚	○						60	宮前遺跡	○			○			
23	丸池台遺跡	○						61	小台山遺跡	○	○	○	○			
24	池成遺跡	○				○		62	磯ノ井遺跡	○			○	○		
25	池成塚	○			○	○		63	大道北遺跡				○	○		
26	田端遺跡					○	○	64	台古墳群				○			
27	三島神社遺跡	○			○		○	65	羽黒遺跡	○	○	○	○	○	○	○
28	三島神社古墳				○			66	笹山遺跡	○			○	○		
29	仲町遺跡				○	○		67	日下部遺跡	○	○	○	○	○	○	
30	城山城跡(栗橋城跡)						○	68	三島前遺跡	○			○	○	○	
31	城山遺跡					○		69	住吉遺跡	○			○	○		
32	上船戸遺跡	○			○	○	○	70	水海城跡					○	○	
33	切通遺跡	○			○			71	神明西遺跡				○	○		
34	坂間遺跡	○			○	○		72	白山台遺跡				○	○		
35	痕泉塚古墳				○			73	道場女遺跡	○			○	○		
36	橋向遺跡	○				○	○	74	表ノ前遺跡	○			○	○		
37	古樋遺跡	○			○	○	○	75	表ノ前経塚							○
38	堀の内遺跡						○	76	伝水海城跡						○	



第2図 積逕新田遺跡調査区設定図（五霞町都市計画図2,500分の1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

釈迦新田遺跡は、五霞町の北部に位置し、利根川右岸の標高10mほどの低台地上に立地している。平成21・22年度の調査では、縄文時代の竪穴建物跡2棟、中世の方形竪穴遺構や火葬施設など墓域に関連する遺構、近世の堀跡などが調査されている。今回の調査区は、平成21年度調査区と平成22年度調査区の間で、調査面積は1,351㎡である。調査前の現況は、宅地・森林・地藏堂跡であった。

調査の結果、掘立柱建物跡3棟（時期不明）、井戸跡1基（時期不明）、火葬施設1基（中世）、土坑76基（縄文時代8・中世30・近世1・時期不明37）、溝跡7条（近世4・時期不明3）、柱穴列4条（時期不明）、ピット群1か所（時期不明）、遺物包含層1か所（縄文時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に7箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師質土器（小皿）、陶器（皿・鉀皿・天目茶碗・搥鉢・瓶々）、瓦質土器（焙烙・火鉢）、石器（鎌・石皿・磨石・凹石・砥石・剥片）、土製品（円筒埴輪・羽口）などである。

第2節 基本層序

調査区北端のB5c6区北壁にテストピットを設定し、深さ13mまで掘り下げて基本土層の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

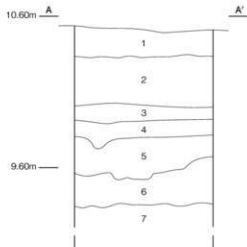
第1層から第3層までは現代の造成土である。

第1層は、灰褐色を呈し、粘性は弱く、締まりは強い。層厚は15～20cmである。

第2層は、灰褐色を呈し、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は30～35cmである。

第3層は、褐灰色を呈し、灰褐色の粘土ブロックを少量含み、粘性・締まりとも普通である。層厚は8～13cmである。

第4層は、黒褐色を呈する旧表土である。前回調査の第2層に相当し、シルト粒子を少量含み、粘性は普通で、締まりは弱い。層厚は10～17cmである。



第3図 基本土層図

第5層は、暗褐色を呈したシルト粒子を多量に含んだ暗褐色の層で、粘性、締まりとも普通である。前回調査の第3層に相当すると見られ、今回調査では、層中から縄文時代中期の土器や石鎌などが出土し、遺物包含層として報告している。層厚は15～28cmである。

第6層は、明褐色のシルト質層である。粘性は極めて強く、締まりは普通である。層厚は16～31cmである。

第7層は、褐色の粘土層である。粘性・締まりとも極めて強い。層厚は18cmまで確認したが、それ以下は未掘のため不明である。

遺構は第5層の上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑8基、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

今回の調査で、出土遺物や重複関係から、縄文時代と見られる土坑8基を確認した。以下、遺構の形状や特色のある遺物が出土している5基について、本文と実測図で解説する。その他の土坑については、実測図と土層解説、一覧表で掲載する。

第281号土坑（第4・5図 PL1）

位置 調査区中央部のB5bl区、標高9.7mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み、第26号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.11m、短径0.95mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。深さは24cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

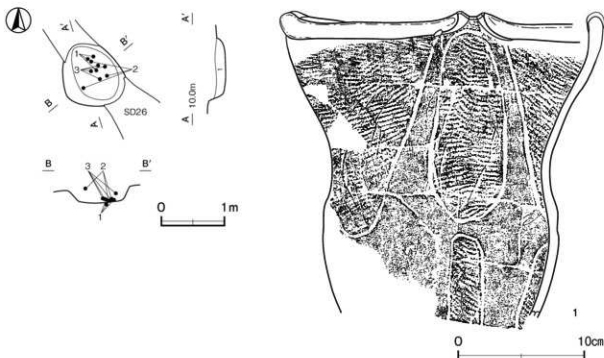
覆土 単一層である。多量の遺物とともに、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 シルト粒子多量

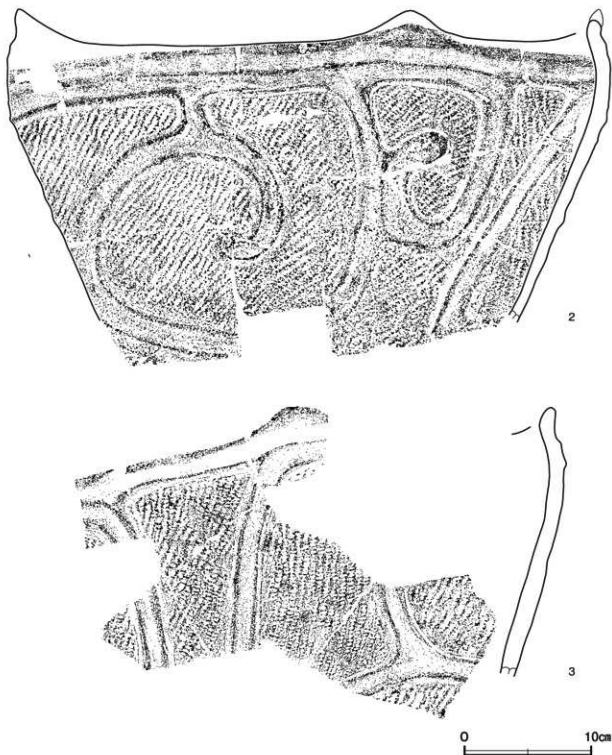
遺物出土状況 縄文土器86点(深鉢)が出土している。1～3は、覆土層から底面で出土した破片がそれぞれ接合したものである。また、1～3は、第322号土坑と第1号遺物包含層から出土した遺物と接合している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。覆土中から多量の遺物が出土し、接合関係が認められた



第4図 第281号土坑・出土遺物実測図

ことから、廃棄土坑として使われたと考えられる。



第5図 第281号土坑出土遺物実測図

第281号土坑出土遺物観察表(第4・5図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	24.5	(24.2)	-	長石・石英	橙	普通	式部による目字状文→単筋縄文区を北第→深鉢内を普通口縁部隆起部による無文部	腹土中層→ 底面	中層土層 IV.4 IV.4
2	縄文土器	深鉢	[50.0]	(25.0)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	隆部による目字文→単筋縄文区を北第→深鉢内を普通口縁部隆起部による無文部	腹土上層→ 底面	中層土層 IV.4 IV.4
3	縄文土器	深鉢	-	(21.3)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	式部作りの深鉢による目字→単筋縄文区を北第→深鉢内を普通口縁部隆起部による無文部	腹土中層→ 下層	中層土層 IV.4 IV.4

第 313 号土坑 (第 6 図 PL 1)

位置 調査区中央部の B 4b0 区、標高 98 m ほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.39 m、短径 0.37 m の円形である。深さは 20 cm で、底面は皿状を呈している。壁はほぼ直立している。

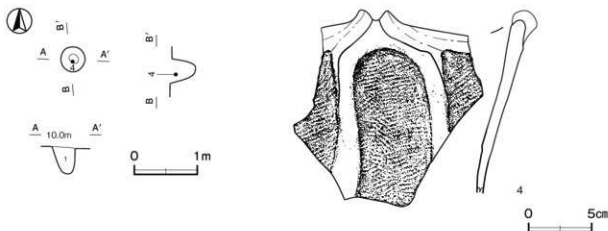
覆土 単一層である。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 シルトブロック少量

遺物出土状況 縄文土器 1 点 (深鉢) が出土している。4 は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。



第 6 図 第 313 号土坑・出土遺物実測図

第 313 号土坑出土遺物観察表 (第 6 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	-	(147)	-	長石・石英・ 赤鉄・赤色粒子	にぶい黒	普通	陸層による逆U字状文→単面縄文肌を充填→ 陸層内を磨削 口縁部隆帯による無文帯	覆土中層	加賀市立五箇 中野支庫 PL 4

第 314 号土坑 (第 7 図)

位置 調査区中央部の B 5b1 区、標高 98 m ほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.45 m、短径 0.27 m の楕円形で、長径方向は $N-85^{\circ}-W$ である。深さは 22 cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

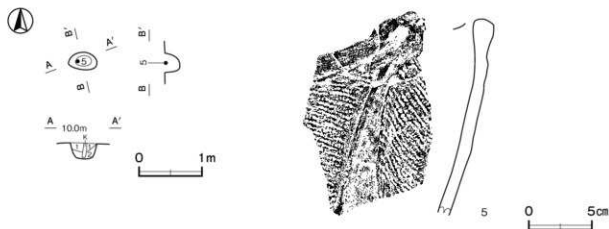
土層解説

1 黒褐色 シルト小ブロック微量

2 暗褐色 シルト粒子多量

遺物出土状況 縄文土器 4 点 (深鉢) が出土している。5 は、覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。



第7図 第314号土坑・出土遺物実測図

第314号土坑出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	-	(156)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	段差による区画→単筋縄文LRを充填→段差内磨消 口縁部隆起による無文帯	覆土上層	加曾野E五式Ⅱ 中期末葉 Ⅱ, 4

第321号土坑（第8図）

位置 調査区東部のB5c2区、標高98mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.94m、短径0.79mの楕円形で、長径方向はN-26°-Eである。深さは48cmで、底面は平坦である。壁は北壁と西壁がほぼ直立しており、他は外傾している。

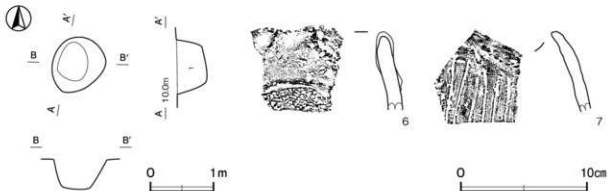
覆土 単一層である。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色シルトブロック少量

遺物出土状況 縄文土器17点（深鉢）、自然礫1点が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。



第8図 第321号土坑・出土遺物実測図

第321号土坑出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口縁部隆起による区画→単筋縄文LRを充填→ 段差内を磨消 口縁部隆起による無文帯	覆土中	中期末葉 Ⅱ, 4
7	縄文土器	深鉢	-	(64)	-	長石・石英	橙	普通	縦位の条線文 口縁部無文帯	覆土中	

第 322 号土坑 (第 9 図)

位置 調査区東部の B 4b2 区、標高 98 m ほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.47 m、短径 0.99 m の楕円形で、長径方向は N - 85° - W である。深さは 41 cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

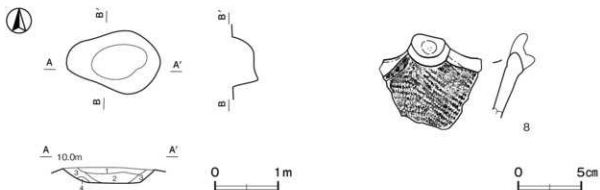
覆土 4 層に分層できる。シルトブロックが含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 シルトブロック中量 | 3 黒褐色 シルト粒子中量 |
| 2 黒褐色 シルトブロック少量 | 4 暗褐色 シルト粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器 44 点 (深鉢)、剥片 1 点が出土している。8 は、覆土中から出土している。また、出土した破片が、第 281 号土坑の 1・3 と接合している。

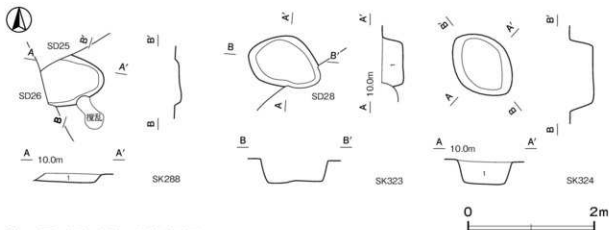
所見 時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。



第 9 図 第 322 号土坑・出土遺物実測図

第 322 号土坑出土遺物観察表 (第 9 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・ 霞石・準鉄粒子	にぶい橙	普通	準縄文 L 段を器位・器位に施文→口縁部以降に よる区画 直線部に線形による内弧文を器位	覆土中	中期末葉 付、4



第 10 図 縄文時代の土坑実測図

第 288 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子多量

第 324 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 (シルト質)

第 323 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 (シルト質)

表2 縄文時代土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
281	B 5 b1	N-38°-W	楕円形	1.11 × 0.95	24	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	HG 1→本跡→SD26
288	B 5 b1	N-88°-W	[楕円形]	(1.00) × 0.80	10	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	HG 1→本跡→SD25・26
313	B 4 b0	-	円形	0.39 × 0.37	20	ほぼ直立	凹状	人為	縄文土器 (深鉢)	HG 1→本跡
314	B 5 b1	N-85°-W	楕円形	0.45 × 0.27	22	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	HG 1→本跡
321	B 5 c2	N-26°-E	楕円形	0.94 × 0.79	48	ほぼ直立 外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)、襷	HG 1→本跡
322	B 5 b2	N-85°-W	楕円形	1.47 × 0.99	41	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)、石器 (網巾)	HG 1→本跡
323	B 5 c3	N-69°-W	楕円形	1.23 × 0.81	34	傾斜	平坦	自然		HG 1→本跡→SD26
324	B 4 c0	N-43°-W	楕円形	1.18 × 0.87	38	傾斜	平坦	自然		HG 1→本跡

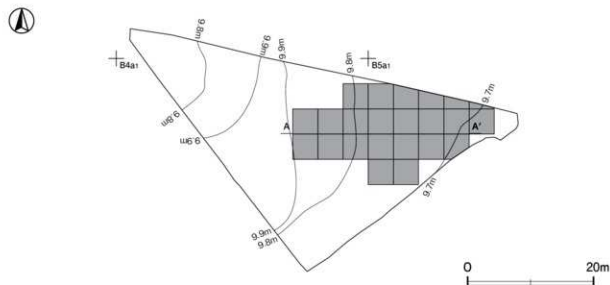
(2) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第11～15図 PL 2)

位置 調査区中央部から東部にかけてのB 4 b8～B 5 e5区。東側に向かって緩やかに傾斜する標高9.9～9.6 mほどの低台地緩斜面に位置している。

確認状況 調査区中央部から東部にかけての確認面から、縄文土器が多く出土したために、4 m四方のグリッド毎に掘り下げを行った。遺物は、器形がわかるものや比較的大きな破片、石器について、座標値に記録を行い、それ以外の破片についてはグリッド毎に一括で取り上げた。

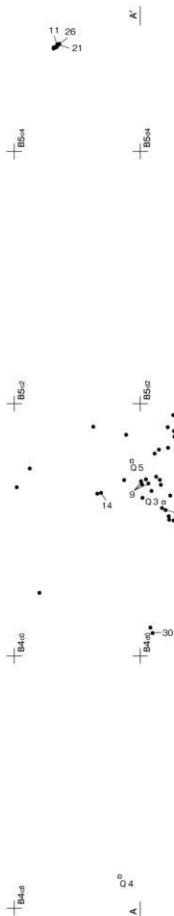
調査範囲 調査を行ったグリッドは、B 4 b0～B 5 b5、B 4 c8～B 5 c5、B 4 d8～B 5 d4、B 5 e1・B 5 e2で、面積は約800m²である。第11図に調査区設定図を掲載する。



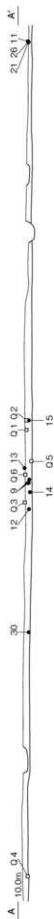
第11図 第1号遺物包含層調査区設定図

重複関係 第2・3号掘立柱建物跡、第265・268～270・272・273・276～279・281・283～285・287～290・313～316・318・321～324号土坑、第24～30号溝、第1号柱穴列、第6号ピット群に掘り込まれている。

堆積状況 単一層である。基本層序第5層に対応する。土質はシルト質を示し、分層することができないこと



第 12 图 第 1 号遺物包含層実測図



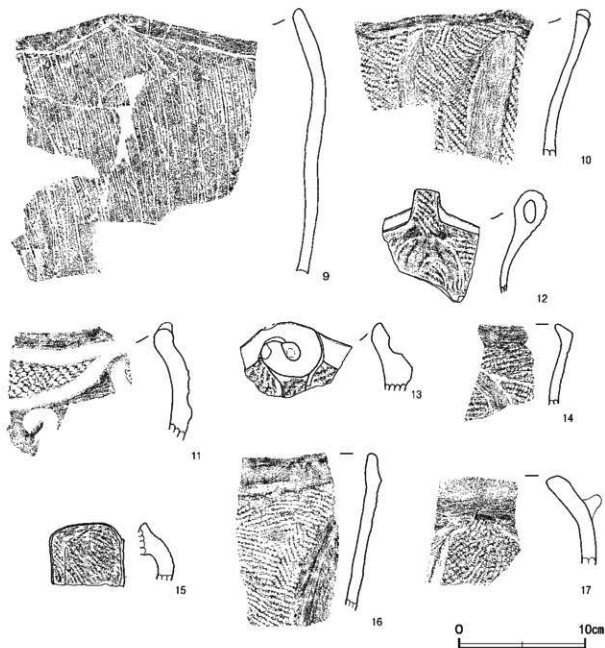
から、短期間に遺物を含んだ土が流れ込んで形成されたと考えられる。

土層解説

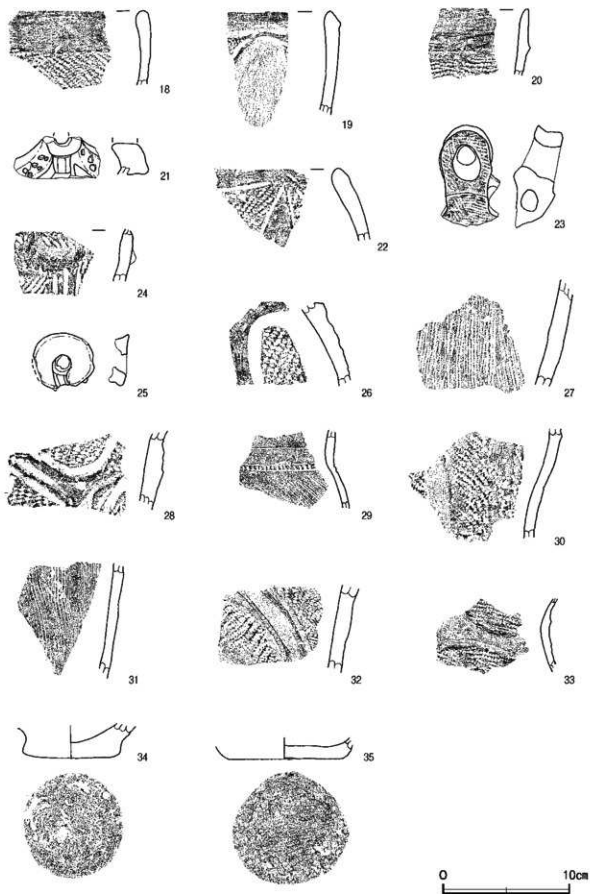
1 暗褐色 明褐色シルトブロック中量

遺物出土状況 縄文土器 862 点（深鉢）、土製品 1 点（粘土塊）、石器 12 点（剥片 8、鏃 3、磨石 1）、自然礫 5 点が出土している。層位的な出土状況は確認できず、散在して出土しているが、B 4 c0 区～B 5 d1 区に比較的集中して確認された。

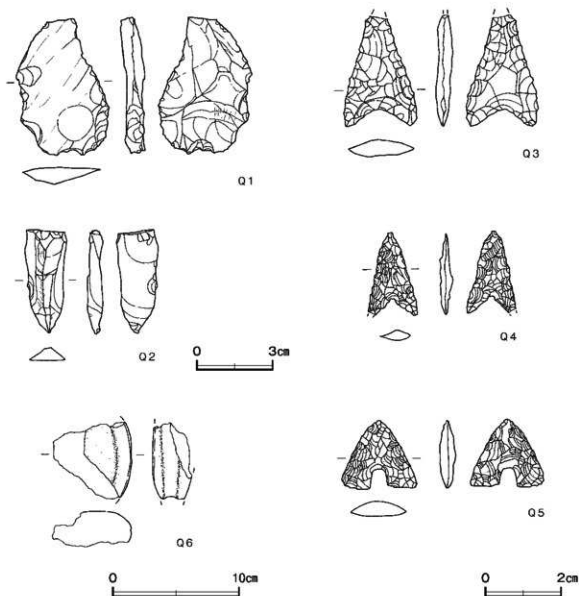
所見 出土土器は、後期に位置付けられる土器が少量出土しているが、多くは中期後半から末葉（加曾利 E III～IV 式）に比定されることから、主な形成時期は中期末葉とみられる。堆積土はシルト質で、出土遺物の角や文様に摩耗が確認されるものもあることから、周辺の集落の遺物が、西傾斜の斜面に流れ込んで短期間に堆積したとみられる。



第 13 図 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第 14 图 第 1 号遗物包含层出土遗物实测图 (2)



第15図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(3)

第1号遺物包含層出土遺物観察表(第13~15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	-	(21.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	斜位の素縄文→縦位の素縄文 口縁部横位の沈線による区画	B 5d1	PL 5
10	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単筋縄文 L区→磨消による懸垂文 口縁部隆線による無文帯	B 5b1	PL 5
11	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母・赤色鉄子	橙	普通	太い沈線による区画→縦筋縄文 RLL を充填→沈線内を磨消 口縁部無文	B 4c0	加賀川B式器 PL 5
12	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による字子状文→単筋縄文 L区を充填→把手部隆付→赤字文内を磨消 口縁部隆線による無文帯	B 5d1	中間未定 PL 5
13	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単筋縄文 RL →高巻状の突起隆付 口縁部隆線による区画	B 5c1	中間未定 PL 5
14	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による区画→単筋 L区を充填→沈線内を磨消	B 5d1	中間未定 PL 5
15	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	把手部 単筋縄文 RL 側面磨き	B 5b1	
16	縄文土器	深鉢	-	(12.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	隆線による懸垂文→単筋縄文 RL を充填→懸垂文内を磨消 口縁部隆線による区画 口縁部無文	B 5e1	中間未定 PL 5
17	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	斜位の単筋縄文 RL →縦位の単筋縄文 RL →隆帯による区画 口縁部隆線による無文帯	B 5e1	中間未定 PL 5
18	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単筋縄文 RL 口縁部隆線による無文帯	B 5d1	PL 5
19	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆線による懸垂文→縦筋縄文 LRL →懸垂文内を磨消 口縁部隆線による無文帯	B 4d0	中間未定

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	単節縄文LR 口縁部隆起による無文帯	B 5d1	
21	縄文土器	深鉢	-	(2.6)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	内状の突起部(隆起)による無文帯 中帯に縦位の瓦割 口縁部隆起による区画文 隆帯に2条の同文文 口縁部隆起による無文帯	B 5c4	姓名付式期 後期附属
22	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	内帯による無文帯→縦位の単節縄文LRを充填→無文帯内を巻消 口縁部隆起による無文帯	B 5c2	中期末葉 PL 5
23	縄文土器	把手	-	(8.2)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	把手部 無節縄文LR 段による区画 側面サテ裏面下部隆起	B 5b2	PL 5
24	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	斜位の条線文→縦位の条線文→口縁部斜位の折み目→隆起による区画文	B 5c2	中期後半
25	縄文土器	把手	-	(4.4)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	把手部 渦巻状の突起 裏面隆起	B 5d1	中期末葉
26	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	太い沈帯による区画→縦位の単節縄文LRを充填→沈帯を巻消	B 5c4	中期末葉
27	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	櫛歯状工具による条線文	B 5c4	
28	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	縦節縄文LR→沈帯を伴う隆起によるY字状文→Y字状文内を巻消	B 4c8	中期末葉
29	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	斜位の条線文→横位の沈帯による区画→沈帯内を巻消 区画内下部に2条の沈帯の区画内に斜位の同文文	B 4d8	加賀川B-豊谷 太田 PL 5
30	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆起によるY字状文→縦位の単節縄文LRを充填→Y字状文内を巻消	B 4d0	中期末葉 PL 5
31	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	長石・石英	灰褐色	普通	櫛歯状工具による縦位の条線文	B 5d1	
32	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	0段多条の縦文帯 0→沈帯を伴う隆起による弧状文→弧状文内を巻消	B 5d3	加賀川B 太田
33	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	単節縄文LR→横位の隆起による区画→隆起内を巻消 内面巻き	B 5c1	中期末葉→長期 初葉 PL 5
34	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	7.7	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	底部外面へつ開り 頸部直圧1か所 ナ字調整	B 5b1	
35	縄文土器	深鉢	-	(1.6)	9.1	長石・石英・ 雲母	にぶい赤褐	普通	底部外面へつ開り	B 5c1	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	スライバー	5.4	3.8	0.9	14.89	チャート	片面縁刃部加工	B 5d1	PL 6
Q 2	刮片	4.1	1.7	0.6	4.23	チャート	打面は単節隆起 裏面に同一方向からの割離痕	B 5d1	
Q 3	鏃	(3.0)	1.9	0.5	(1.98)	チャート	四基無基縁 両面押圧調整 先端部破損	B 5d1	PL 6
Q 4	鏃	2.2	1.3	0.4	0.64	チャート	四基無基縁 両面押圧調整 片側調整破損	B 4c8	PL 6
Q 5	鏃	1.8	2.0	0.4	1.10	チャート	四基無基縁 両面押圧調整	B 5c1	PL 6
Q 6	磨石	(6.1)	(6.2)	(3.3)	(11.609)	安山岩	縦線部使用痕	B 5d1	

2 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、火葬施設1基、土坑30基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

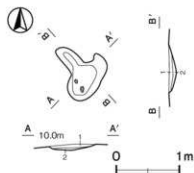
(1) 火葬施設

「当財団調査報告」第352集では、火葬土坑として4基が報告されているが、今回の報告では、火葬施設と名称を変更する。

第5号火葬施設 (第16図)

位置 調査区中央部のB 4e0区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

規模と形状 平面形はT字形で、主軸方向はN-45°-Wである。通風溝は、長さ0.89m、上幅0.26m、下幅0.08mである。確認面からの深さは41cmで、底面は皿状を呈し、燃焼部に向かって傾斜している。燃焼部は横幅0.79m、奥行0.47mの不整長方形で、主軸と直交している。確認面からの深さは10cmで、底面は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。燃焼部の南西部から炭化材と骨片が確認できた。



第16図 第5号火葬施設実測図

覆土 2層に分層である。いずれも炭化粒子や骨粉が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量、シルトブロック・骨粉少量 2 黒褐色 炭化粒子・シルト粒子中量、骨粉少量

遺物出土状況 燃焼部から炭化材、骨片及び骨粉が出土している。

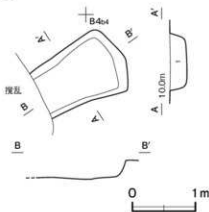
所見 炭化粒子、骨片及び骨粉が出土していることや、T字状の形態、及び調査区内に同時期の墓坑と見られる土坑が存在することから、葬送にかかわる火葬施設と考えられる。遺骸を火葬し、取骨したのちに埋め戻されている。時期は、周辺の遺構との関連から中世と考えられる。

(2) 土坑

今回の調査で、出土遺物、形状、重複関係から、中世と見られる土坑3基を確認した。以下、遺構の形状や遺物が特徴的な3基について本文と実測図で解説する。その他の土坑については、実測図と土層解説、一覧表で掲載する。

第245号土坑 (第17図)

位置 調査区東部のB4b3区、標高98mほどの低台地緩斜面に位置している。



第17図 第245号土坑実測図

規模と形状 西部が攪乱により壊されているため、長軸方向は1.46mしか確認できなかった。短軸方向は0.90mで、平面形は長方形と推定される。長軸方向はN-55°-Eである。深さは23cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 単一層である。シルトブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒色 シルトブロック中量

遺物出土状況 土師質土器1点(小皿)のほか、縄文土器2点(深鉢)が出土している。土師質土器は細片のため、図示できなかった。

所見 形状や覆土の状況から墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から中世と考えられる。

第279号土坑 (第18図)

位置 調査区西部のB4c0区、標高98mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.88m、短軸0.82mの長方形で、長軸方向はN-51°-Eである。深さは23cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

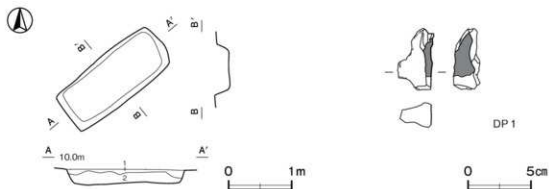
覆土 2層に分層できる。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒色 シルトブロック少量 2 黒褐色 シルトブロック中量

遺物出土状況 土製品1点(羽口)のほかに、縄文土器7点(深鉢)が出土している。

所見 形状や覆土の状況から、墓坑の可能性がある。時期は、周囲の遺構との関係から中世と考えられる。



第18図 第279号土坑・出土遺物実測図

第279号土坑出土遺物観察表(第18図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	破口	(28)	(49)	(1.8)	(15.74)	粘土・スサ	にぶい橙	先端部片：先端部灰赤色に変色、火熱によって劣化しており、青灰色の顔着材が付着	覆土中	

第283号土坑(第19図)

位置 調査区西部のB 4 d9区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み、第6号ビット群のP 98・P 99に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.53m、短軸0.59mの長方形で、長軸方向はN-67°-Eである。深さは30cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

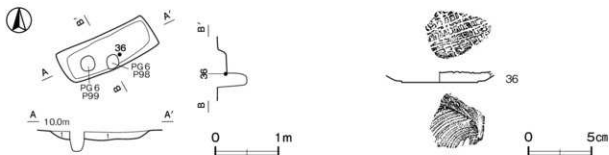
覆土 単一層である。シルトブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 シルトブロック・灰褐色粘土ブロック少量

遺物出土状況 陶器1点(鉢皿)のほか、縄文土器3点(深鉢)が出土している。36は、底面から出土している。

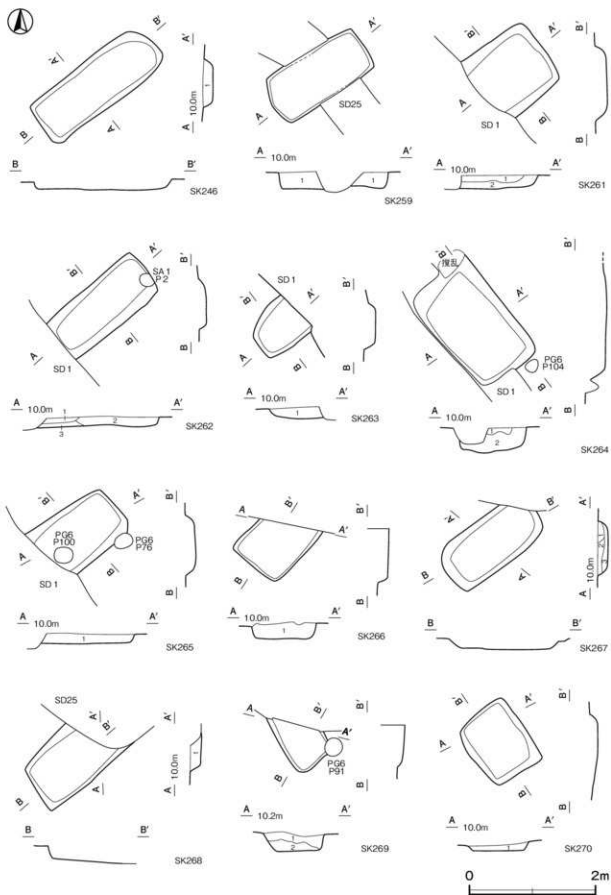
所見 形状や覆土の状況から、墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から中世と考えられる。



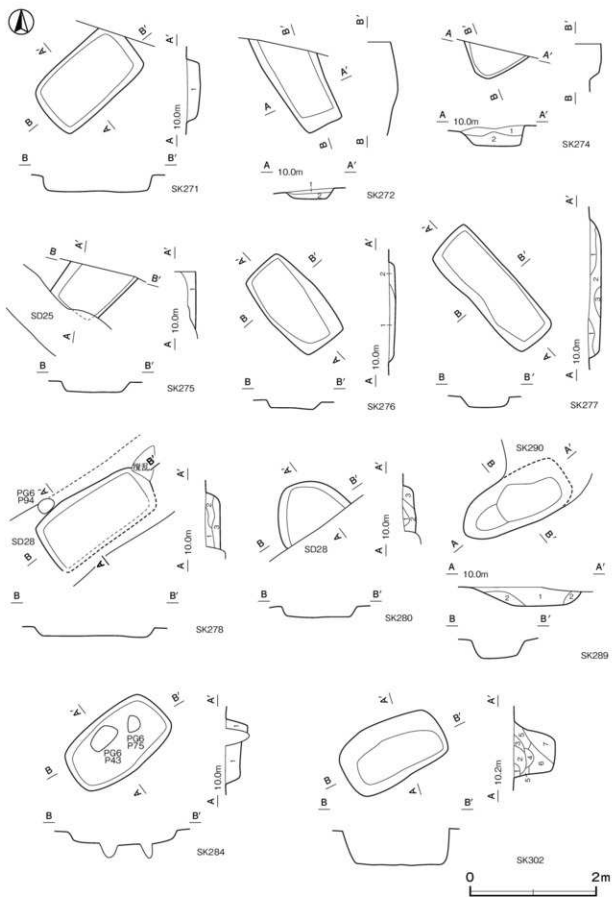
第19図 第283号土坑・出土遺物実測図

第283号土坑出土遺物観察表(第19図)

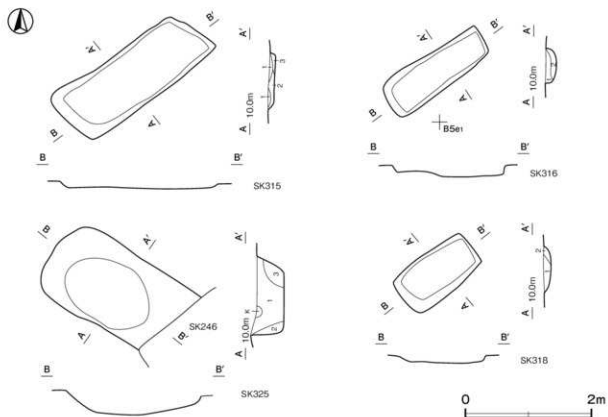
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
36	陶器	深鉢	-	(0.8)	(0.6)	長石・石英にぶい黄褐色	内面施軸 節目施文(縦→横) 底面凹軸葉切り	灰軸	瀬戸	床面	古瀬戸(瀬戸第5期) P. 6



第20図 中世の土坑実測図(1)



第21図 中世の土坑実測図(2)



第22図 中世の土坑実測図(3)

第246号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック少量

第259号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック中量

第261号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック中量
2 黒色シルトブロック少量

第262号土坑土層解説

- 1 黒褐色シルトブロック中量
2 黒褐色シルトブロック少量
3 黒色シルトブロック少量

第263号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック少量

第264号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック少量
2 黒色シルトブロック中量

第265号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック少量

第266号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック中量

第267号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック少量
2 黒褐色シルトブロック中量
3 黒色シルトブロック中量

第268号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック中量

第269号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック中量
2 黒褐色シルトブロック少量

第270号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック中量

第271号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック中量

第272号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック少量
2 黒褐色シルトブロック多量

第274号土坑土層解説

- 1 黒褐色シルトブロック少量
2 黒色シルトブロック多量

第275号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック中量

第276号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック少量
2 黒色シルトブロック中量

第277号土坑土層解説

- 1 黒色シルトブロック少量
2 黒色シルトブロック中量
3 黒色シルトブロック微量

第278号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 黒色 シルトブロック中量
- 3 黒色 シルトブロック少量

第280号土坑土層解説

- 1 暗褐色 灰褐色粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 シルト粒子少量
- 3 黒色 シルトブロック中量

第284号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第289号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 灰褐色 シルトブロック中量

第302号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子中量
- 2 黒色 シルト粒子微量
- 3 黒褐色 シルト粒子少量
- 4 黒褐色 シルトブロック少量
- 5 黒褐色 シルトブロック多量
- 6 黒褐色 シルトブロック中量
- 7 暗褐色 シルトブロック中量

第315号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子微量
- 2 黒色 シルト粒子微量
- 3 暗褐色 シルト粒子中量

第316号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック中量
- 2 黒褐色 シルトブロック多量

第318号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック中量
- 2 黒褐色 シルトブロック多量

第325号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 暗褐色 シルトブロック中量
- 3 黒色 シルトブロック少量

表4 中世土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		傾 度	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考	
				長径×短径 (m)	深さ (cm)						
245	B 4b3	N-55°-E	[長方形]	(1.46) × 0.90	23	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢), 土師質土器(小皿)		
246	B 4b5	N-49°-E	長方形	2.20 × 0.80	14	外傾	平坦	人為		SK325→本跡	
259	B 4a8	N-59°-E	長方形	1.55 × 0.84	35	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	本跡→SD25	
361	B 4a6	N-52°-E	[長方形]	(1.25) × 1.20	19	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢), 靱石	本跡→SD 1	
362	B 4b6	N-49°-E	[長方形]	(1.87) × 0.80	14	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	本跡→SD 1 SA 1上の新跡不明	
363	B 4c7	N-49°-E	[長方形]	(0.81) × 0.75	17	外傾	平坦	人為		本跡→SD 1	
364	B 4c7	N-38°-W	[長方形]	1.77 × [1.09]	40	外傾	平坦	人為		本跡→SD 1	
365	B 4d8	N-52°-E	[長方形]	(1.50) × 0.94	17	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	本跡→SD 1・ PG 6	
366	B 4a9	N-44°-E	[長方形]	(1.10) × 0.90	19	外傾	平坦	人為			
367	B 4a9	N-52°-E	[長方形]	1.72 × 0.83	15	傾斜	平坦	人為			
368	B 4c0	N-47°-E	[長方形]	(1.72) × 0.95	28	外傾	平坦	人為		HG 1→本跡 →SD25	
369	B 5b2	N-30°-W	[長方形]	(0.93) × 0.70	12	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1→本跡 →PG 6	
270	B 5b3	N-31°-W	長方形	1.15 × 0.96	10	外傾	平坦	人為		HG 1→本跡	
271	B 4a6	N-49°-E	長方形	1.58 × 0.98	26	傾斜	直立	人為			
272	B 5b3	N-27°-W	[長方形]	(1.61) × 0.86	14	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1→本跡	
274	B 3j5	N-70°-E	[長方形]	(0.78) × (0.54)	32	外傾	平坦	人為			
275	B 4a8	N-40°-E	[長方形]	(1.05) × 0.94	16	外傾	平坦	人為		本跡→SD25	
276	B 5c1	N-43°-W	長方形	1.61 × 0.90	11	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1→本跡	
277	B 5c1	N-40°-W	長方形	2.18 × 0.81	17	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1→本跡	
278	B 5c3	N-50°-E	[長方形]	1.96 × (0.88)	15	傾斜	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1→本跡 →SD28	
279	B 4c0	N-51°-E	長方形	1.88 × 0.82	23	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢), 土製品(皿口)	HG 1→本跡	
280	B 4g8	N-56°-E	[楕円形]	1.23 × (0.83)	17	外傾	平坦	人為		本跡→SD28	
283	B 4d9	N-67°-E	長方形	1.53 × 0.59	30	傾斜	平坦	人為	縄文土器(深鉢), 陶器(部皿)	HG 1→本跡 →PG 6	
284	B 4d8	N-56°-E	長方形	1.73 × 1.00	25	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢), 土師質土器(小皿)	HG 1→本跡 →PG 6	
289	B 4d0	N-63°-E	[楕円形]	(1.90) × 0.82	28	外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	HG 1→本跡 →SK200	
302	B 4b9	N-63°-E	隅丸長方形	1.70 × 0.99	55	傾斜	直立	外傾	人為	縄文土器(深鉢), 石器(削片)	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
315	B 5 d3	N-33°-E	長方形	2.50 × 0.57	10	縦斜	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	HG 1→本跡
316	B 4 d0	N-52°-E	長方形	1.82 × 0.57	16	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)、土師質土器 (釜)	HG 1→本跡
318	B 5 d1	N-55°-E	長方形	1.38 × 0.74	8	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	HG 1→本跡
325	B 4 b4	N-50°-W	[隅丸長方形]	(2.35) × 1.35	34	縦斜	風状	人為	縄文土器 (深鉢)	本跡→SK216

3 近世の遺構と遺物

当時期の遺構は、土坑1基、溝跡4条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑

第260号土坑 (第23図)

位置 調査区西部のB3j5区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.58m、短軸0.77mの長方形で、長軸方向はN-68°-Eである。深さは20cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

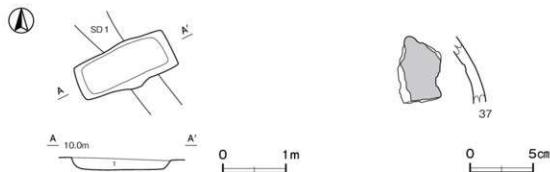
覆土 単一層である。シルトブロックを多く含んでいることから、埋め戻されている。

土層解組

1 暗 褐 色 シルトブロック多量

遺物出土状況 陶器1点(瓶カ)が、覆土中から出土している。

所見 形状や覆土の状況から、墓坑の可能性がある。時期は、近世とみられる第1号溝跡を壊しており、それ以降と考えられる。



第23図 第260号土坑・出土遺物実測図

第260号土坑出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
37	陶器	瓶カ	-	(5.3)	-	長石・緻密 に近い黄緑	外面輪軸 内面隅りによる調整	灰緑	瀬戸・美濃系	覆土中	

(2) 溝跡

当時期の溝跡は、4条を確認した。平面図は全体図(付図)に示す。

第1号溝跡（第27図）

調査年度 平成27年度 南東部は平成21年度に調査し、『当財団調査報告書』第352集で第1号溝跡として報告している。

位置 調査区西部から中央部にかけてのA4j4区～B4g0区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第261～265号土坑、第1号遺物包含層を掘り込み、第260号土坑、第28号溝に掘り込まれている。第6号ピット群との新旧関係は不明である。

規模と形状 西北部が調査区域外へ延び、南東部で平成21年度調査分に接続する。今回確認した長さは37.42mであった。A4j5区から南東方向（N-41°-W）へ直線的に延びて、B4g0区で平成21年度調査分に接続する。規模は、上幅0.40～0.90m、下幅0.18～0.34mで、確認面からの深さは7～34cmである。断面はU字状で、壁は外傾している。底面は、北西から南東方向に傾斜している

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 シルト粒子少量 | 4 黒褐色 シルトブロック少量 |
| 2 黒褐色 シルト粒子中量 | 5 黒褐色 シルト粒子中量（シルト質） |
| 3 黒褐色 シルト粒子少量（シルト質） | |

遺物出土状況 瓦質土器3点（焙烙）、陶器1点（皿）のほかに、縄文土器12点（深鉢）が出土している。

所見 直線的に伸びることから、地割のための溝と考えられる。時期は、周囲の遺構との新旧関係や出土土器から近世と考えられる。

第25号溝跡（第24・27図）

位置 調査区中央部から東部にかけてのB4a7区～B5b1区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

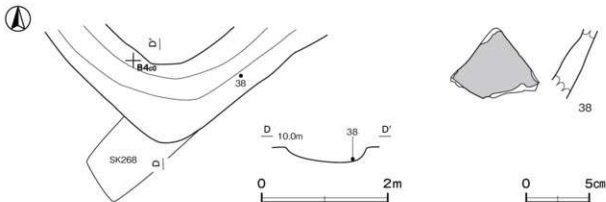
重複関係 第1号遺物包含層、第259・268・275・288号土坑を掘り込み、第26号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B4a7区の調査区域外から南東方向（N-47°-W）へ直線的に延び、B4c0区で北東方向（N-52°-E）にL字状に屈曲してB5b1で調査区域外に延びている。そのため、長さは19.52mしか確認できなかった。規模は、上幅0.66～1.00m、下幅0.20～0.40mで、確認面からの深さは12～24cmである。断面はU字状で、壁は外傾している。底面は北西から北東方向に傾斜している。

覆土 3層に分層できる。シルトブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 シルトブロック少量 | 3 黒褐色 シルト粒子少量 |
| 2 黒褐色 シルトブロック微量 | |



第24図 第25号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 陶器1点(甕)のほか、縄文土器22点(深鉢)、軽石1点が出土している。38は、B4c0区の底面から出土している。

所見 L字状に屈曲することから、地割のための溝と考えられる。時期は、出土土器から近世と考えられる。

第25号溝跡出土遺物観察表(第24図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
38	陶器	甕	-	(55)	-	長石・石英に多い赤褐色	四面輪軸 内面ロクロナデ	踏輪	瀬戸・美濃	B4c0区 底面	

第26号溝跡(第27図)

位置 調査区中央部から東部かけてのB4a0区～B5c2区、標高9.7mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第281・288号土坑、第25号溝跡、第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 B4a0区の調査区域外から南東方向(N-40°-W)へ小刻みに蛇行しながら伸び、B5c2区で立ち上がっているため、長さは11.30mしか確認できなかった。規模は、上幅0.26～0.80m、下幅0.12～0.44mで、確認面からの深さは10～20cmである。断面はU字状で、壁は外傾している。底面は、南東から北西方向に傾斜している。

覆土 単一層である。覆土は締まりが弱く、一度に埋め戻されたと思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子微量(シルト質)

遺物出土状況 縄文土器62点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため詳細は不明であるが、近世と見られる第25号溝跡を掘り込んでおり、近世と考えられる。性格は地割を目的としたと見られる。

第28号溝跡(第25～27図 PL2・3)

位置 調査区西部から東部かけてのB4h7区～B5b4区、標高9.7mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第278・280・323号土坑、第1号遺物包含層を掘り込み、第1号溝、第6号ピット群P94に掘り込まれている。

規模と形状 南西部と北東部が調査区域外へ延びているため、長さは35.62mしか確認できなかった。また、北東部は掘り込みが浅く、確認面では捉えられなかった。B4h7区から北東方向(N-52°-E)へ直線的に延びている。上幅1.30～2.00m、深さは3～15cmの逆台形状の溝がまず掘り込まれ、さらに底面の両側の壁際にU字状の溝が掘り込まれている。北側の溝は、B4h7区からB5c3区まで確認できた。上幅0.20～0.76m、下幅0.08～0.30m、深さは10～21cmである。南側の溝は、上幅0.36～0.58m、下幅0.10～0.24m、深さは29～41cmである。壁は外傾し、底面は南西から北東方向に傾斜している。

覆土 7層に分层できる。不規則な堆積状況を示しており、埋め戻されたとみられる。

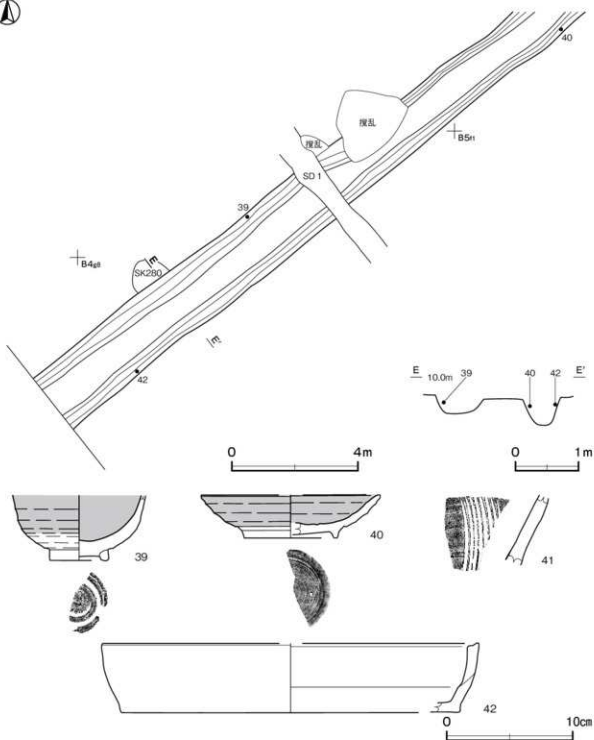
土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | シルト粒子中量 | 5 黒色 | シルト粒子少量 |
| 2 黒褐色 | シルト粒子中量 | 6 黒色 | シルト粒子中量 |
| 3 灰褐色 | シルトブロック・灰褐色粘土ブロック少量 | 7 黒褐色 | シルト粒子少量 |
| 4 黒褐色 | シルトブロック少量 | | |

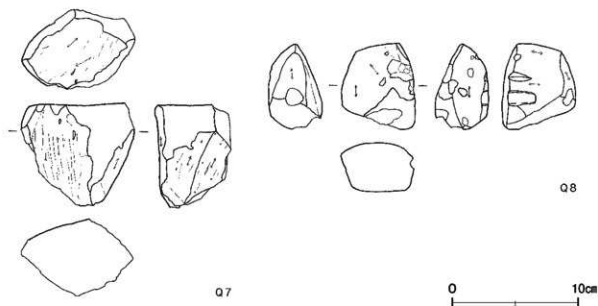
遺物出土状況 瓦質土器1点(焙烙)、陶器11点(天目茶碗2、皿1、播鉢2、不明6)、石器2点(砥石)、

のほかに、縄文土器 98 点（深鉢）、須恵器 1 点（甕）、土製品 1 点（円筒埴輪）、石器・石製品 10 点（板碑片カ 3、石核 7）、軽石 2 点、鉄滓 1 点が出土している。

所見 断面形状からは 3 条の溝が重複しているように見えるが、覆土の堆積状況から 1 条の溝と判断した。両側の溝に囲まれた中央部には、硬化面や柱穴列、道路などの構造物は確認されなかった。調査前の地割と同一であることから地割を目的としたと考えられる。時期は、出土土器から近世に埋設したとみられる。



第 25 図 第 28 号溝跡・出土遺物実測図

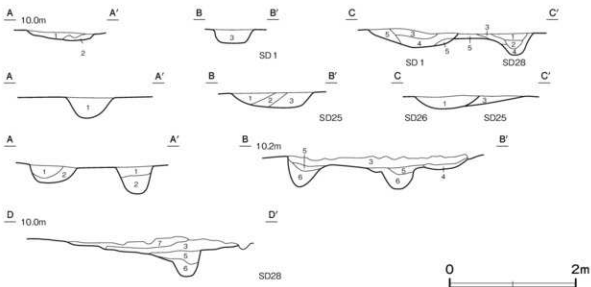


第26図 第28号溝跡出土遺物実測図

第28号溝跡出土遺物観察表(第25・26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸業	産地	出土位置	備考
39	陶器	大目草風	-	(5.1)	[4.6]	長石・石英・砂粒・赤色粒子(浅黄褐色付)	外・内面施軸 高台部高胎 高台部	鉄軸	瀬戸	B 4 f9区 北瀬遺層1中層	大溝前期 PL. 6
40	陶器	甌	[14.2]	3.4	[7.4]	長石・磁密 灰白	外・内面施軸 輪軸段高台部削り出し 西面重立脚き取	灰軸	瀬戸	B 5 d1区 南瀬遺層1上層	大溝期 PL. 6
41	陶器	椀鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	外・内面施軸 内面8本一單位の横目	鉛軸	瀬戸・美濃	南瀬遺層1中	PL. 6
42	瓦葺土器	始飾	[29.8]	5.5	[26.8]	長石・石英・雲母 灰白	口タロ成型 外・内面削り 外面下半 一底面染い・焼熱による変色・身出	-	不明	B 4 g8区 南瀬遺層1中層	PL. 6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	砥石	(8.2)	(9.1)	(6.1)	(20.15)	角閃石アイト*	紙面5面	覆土中	
Q 8	砥石	(6.8)	5.9	4.3	(10.80)	燧灰岩	紙面5面 磨き痕2条 破断面1面	覆土中	



第27図 第1・25・26・28号溝跡実測図

表5 近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	観 視			断面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
1	A 4j - B 4g	N - 41° - W	直線	(37.42)	0.40 - 0.90	0.18 - 0.34	7 - 34	U字状	外堀	人為	縄文土器(深鉢)、陶器(皿)、瓦質土器(切物)	SK30 - 263, HG 1・* 本跡→SK30, SK28
25	B 4a7 - B 4c9 B 4c9 - B 5b1	N - 47° - W N - 52° - E	L字状	(19.52)	0.66 - 1.00	0.20 - 0.40	12 - 24	U字状	外堀	人為	縄文土器(深鉢)、陶器(壺)、軒石	SK259・268・273・ 288→本跡→SK26
26	B 4a0 - B 5c2	N - 40° - W	直線	(11.30)	0.36 - 0.80	0.12 - 0.44	10 - 20	U字状	磁研	人為	縄文土器(深鉢)	SK281・288・ HG 1→本跡
28	B 4b7 - B 5b4	N - 52° - E	直線	(35.62)	-	-	-	逆台形 U字状	外堀	人為	縄文土器(深鉢)、陶器(大 耳茶碗・皿・鉢鉢)、瓦質 土器(煎鍋)、石器(磨石)	SK278 - 280・323, HG 1→SD 1, PG 6

4 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明らかではない掘立柱建物跡3棟、井戸跡1基、柱穴4条について、本文と実測図を記載する。その他、時期が明らかでない、土坑37基、溝跡3条、ピット群1か所については実測図と一覧表にて掲載する。また、表土や遺構に伴わない遺物については、実測図と観察表を掲載する。

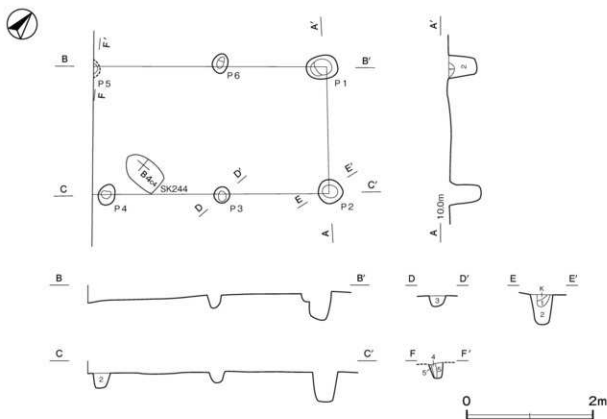
(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡(第28図)

位置 調査区西部のB 4 b4区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第244号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、梁行1間で、桁行は2間しか確認できなかった。側柱建物跡で、桁行方向がN - 50° - Eの東西棟である。規模は桁行37m以上、梁行2.0mである。柱間寸法は、北



第28図 第1号掘立柱建物跡実測図

桁行が東妻から1.7m (5.6尺)、2.0m (6.6尺)、南桁行が東妻から1.7m (5.6尺)、1.8m (6尺)、桁行2.0m (6.6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。P5を除いた平面形は、円形もしくは楕円形で、長径26～49cm、短径25～40cmである。深さは18～50cmである。第1～3層は柱抜き取り後の堆積層で、第4層が柱痕跡、第5層が埋土である。

土層解説

1	黒	色	明褐色粘土ブロック少量	4	黒	色	明褐色粘土ブロック微量
2	黒	色	シルトブロック少量	5	黒	色	明褐色粘土ブロック中量
3	黒	色	シルトブロック中量				

所見 時期は、周囲の遺構との関係から中世以降と考えられるが、遺物が出土していないため特定は困難である。性格は、小屋などの簡易的な建物と考えられる。

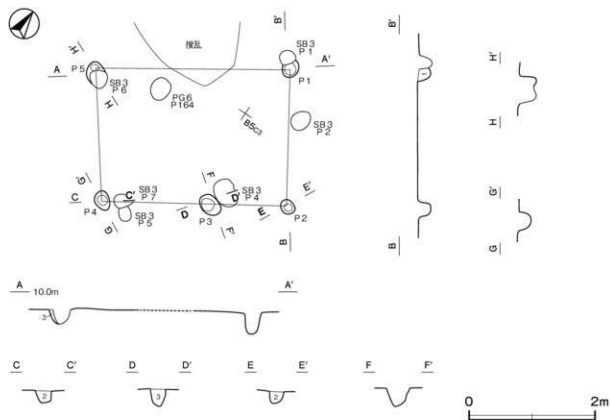
第2号掘立柱建物跡 (第29図)

位置 調査区東部のB5b3区、標高98mほどの低台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み、第3号掘立柱建物に掘り込まれている。第6号ピット群P164との新旧関係は不明である。

規模と形状 桁行2間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-53°-Eの東西棟である。規模は桁行3.1m、梁行2.2mで、面積は7.22㎡である。柱間寸法は、南桁行が東妻から1.2m (4尺)、1.7m (5.6尺)、東梁行が北平から2.2m (7.3尺)、西梁行が2.1m (7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。P1・P5の間の柱穴は攪乱により、確認できなかった。

柱穴 5か所。平面形は楕円形で、長径24～42cm、短径20～30cmである。深さは19～30cmである。第1



第29図 第2号掘立柱建物跡実測図

～3層は、柱抜き取り後の堆積層である。

土層解説

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 黒色シルトブロック中量 | 3 黒褐色シルトブロック中量 |
| 2 黒色シルトブロック中量 | |

所見 時期は、周囲の遺構との関係から中世以降と考えられるが、遺物が出土していないため特定は困難である。性格は、小屋などの簡易的な建物と考えられるが、不明である。

第3号掘立柱建物跡(第30図)

位置 調査区東部のB5b3区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。

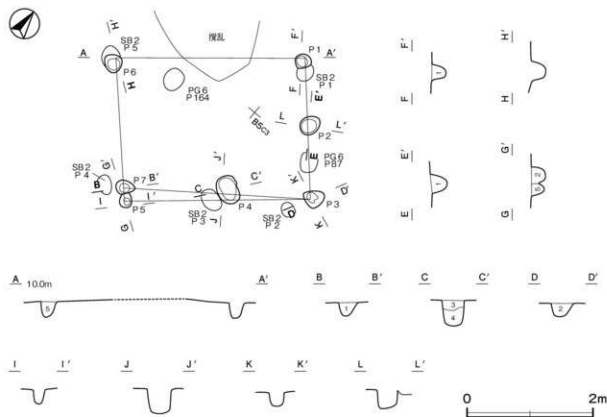
重複関係 第1号遺物包含層、第2号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第6号ピット群P87・P164と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 桁行2間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-50°-Eの東西棟である。規模は桁行3.0m、梁行2.3mで、面積は6.90㎡である。柱間寸法は南桁行が東妻から1.3m(4.3尺)、1.6m(5.3尺)、東梁行は1.1m(3.6尺)等間、柱筋はほぼ揃っている。P1・P6の間の柱穴は攪乱のために、P5・P6の間は精査したが、柱穴を確認できなかった。

柱穴 7か所。柱穴の平面形は楕円形で、長径24～47cm、短径19～32cmである。深さは21～39cmである。第1～5層は、柱抜き取り後の堆積層である。P7がP5を壊しており、P5からP7に建て替えられている。

土層解説

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 黒褐色シルトブロック中量 | 4 黒色シルトブロック少量 |
| 2 黒色シルトブロック中量 | 5 極暗褐色シルトブロック少量 |
| 3 黒褐色シルトブロック少量 | |



第30図 第3号掘立柱建物跡実測図

所見 時期は、周囲の遺構との関係から中世以降と考えられるが、遺物が出土していないため特定は困難である。第2号掘立柱建物跡から本跡に建て替えられたと見られる。

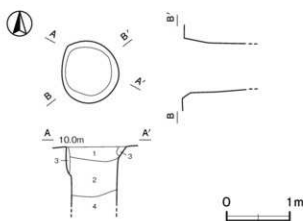
表3 その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	方位方向	柱間数	規模		面積 (㎡)	柱間寸法		柱穴		主な出土遺物	時期	備考
				幅×奥行 (m)	幅×深 (m)		構造	柱数	平面形	深さ(cm)			
1	B4b	N-50°-E	2×1	(3.7) × 2.0	-	1.7~2.0	2.0	欄柱	6	円形・楕円形	18~50	中世以降	SK244とは新田不明
2	B5b	N-53°-E	2×1	3.1 × 2.2	7.22	1.2~1.7	2.1~2.2	欄柱	5	楕円形	19~30	中世以降	HG 1 → 本跡 → SH 3
3	B5b	N-50°-E	2×2	3.0 × 2.3	6.90	1.3~1.6	1.1	欄柱	7	楕円形	21~39	縄文土器(深鉢)	中世以降 HG 1, SH 2 → 本跡

(2) 井戸跡

第22号井戸跡(第31図 PL3)

位置 調査区中央部のB4g9区、標高9.8mほどの低台地緩斜面に位置している。



規模と形状 確認面は径1.00mの円形で、円筒状に掘り下げている。深さ1.00mまで掘り下げたが、湧水による崩落の危険性のために下部の調査を断念した。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況を示し、シルトブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 黒色 シルトブロック少量
- 3 暗褐色 シルトブロック中量
- 4 黒色 シルトブロック微量

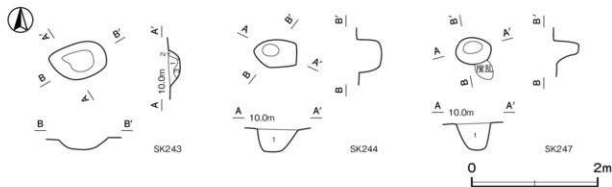
第31図 第22号井戸跡実測図

遺物出土状況 縄文土器1点(深鉢)、石器1点(石皿)が出土している。縄文土器は細片のため図示できない。

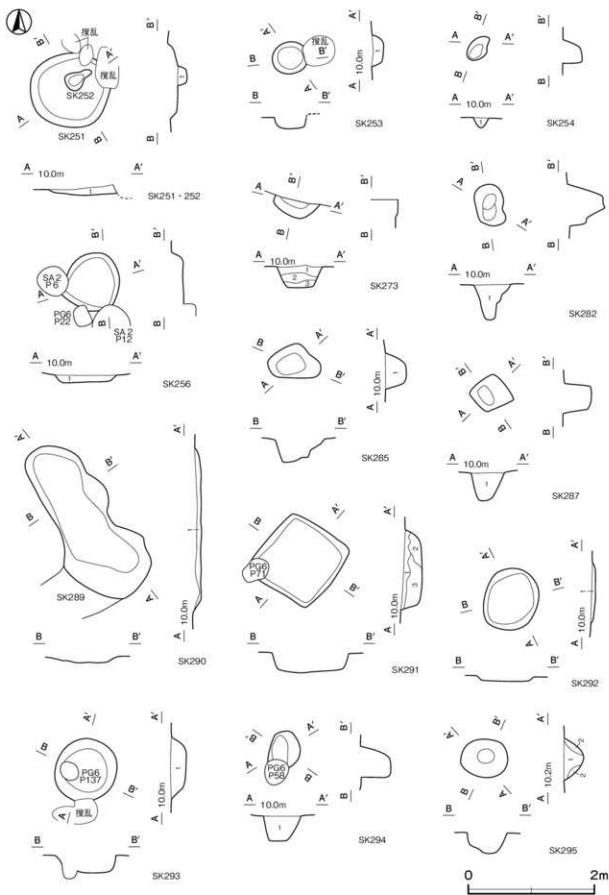
所見 素掘りの構造である。時期は、伴う遺物が出土していないため不明である。

(3) 土坑

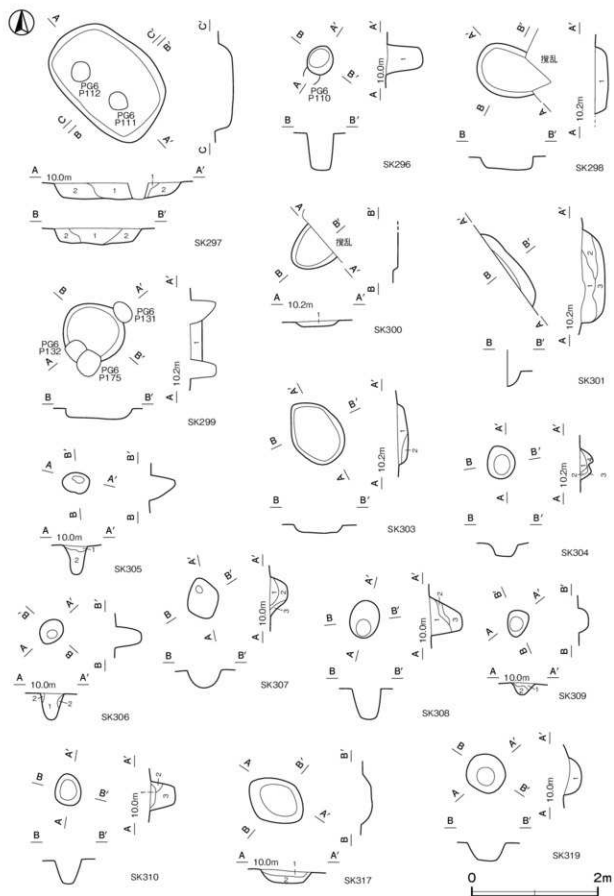
今回の調査で、性格や時期がともに不明な土坑37基が確認されている。これらの土坑については規模と形状等について実測図(第32~35図)と土層解説、一覧表を掲載する。



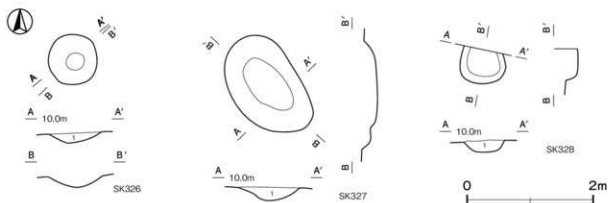
第32図 その他の土坑実測図(1)



第33図 その他の土坑実測図(2)



第34図 その他の土坑実測図(3)



第35図 その他の土坑実測図(4)

第243号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック中量
- 2 黒褐色 シルトブロック少量
- 3 黒色 シルトブロック微量

第244号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック少量

第247号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック少量

第251号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第252号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック少量

第253号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック中量

第254号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック中量

第256号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック少量

第273号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック微量
- 2 黒褐色 シルトブロック少量
- 3 黒色 シルトブロック少量

第282号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第285号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・シルトブロック・灰褐色粘土ブロック少量

第287号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第290号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック・シルト粒子少量

第291号土坑土層解説

- 1 褐灰色 シルトブロック少量
- 2 黒褐色 シルト粒子中量, シルトブロック少量
- 3 黒褐色 シルト粒子中量, シルトブロック微量

第292号土坑土層解説

- 1 灰褐色 シルト粒子・灰褐色粘土ブロック少量

第293号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第294号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第295号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭土粒子・シルトブロック少量
- 2 暗褐色 シルト粒子少量

第296号土坑土層解説

- 1 黒色 シルト粒子少量

第297号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック微量
- 2 黒色 シルトブロック少量

第298号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第299号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量, 灰褐色粘土ブロック微量

第300号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック・灰褐色粘土ブロック少量

第301号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック多量
- 2 黒褐色 シルトブロック中量
- 3 黒色 シルトブロック中量

第303号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子中量
- 2 暗褐色 シルト粒子中量

第304号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子少量
- 2 黒褐色 シルトブロック少量
- 3 黒褐色 シルトブロック多量
- 4 黒褐色 シルトブロック中量

第305号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 黒褐色 シルト粒子中量

第306号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 暗褐色 シルト粒子中量

第307号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 黒褐色 シルトブロック中量
- 3 暗褐色 シルトブロック中量

第308号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 暗褐色 シルトブロック中量
- 3 黒色 シルトブロック少量

第309号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子少量
- 2 黒褐色 シルト粒子中量

第310号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量
- 2 黒色 シルトブロック中量
- 3 黒色 シルトブロック少量

第317号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルト粒子中量
- 2 暗褐色 シルト粒子中量

第319号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック少量

第326号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第327号土坑土層解説

- 1 黒褐色 シルトブロック少量

第328号土坑土層解説

- 1 黒色 シルトブロック少量

表7 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 格		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
243	B 4 b6	N-62°-E	楕円形	0.79 × 0.57	19	縦斜	平坦	人為		
244	B 4 e4	N-63°-W	楕円形	0.70 × 0.47	37	外傾	平坦	人為		SB 1と新旧不明
247	B 4 b5	N-70°-E	楕円形	0.55 × 0.43	36	ほぼ直立	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	
251	B 4 c5	-	円形	1.22 × 1.22	13	縦斜	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	本跡→SK252
252	B 4 c5	N-63°-E	不整形円形	0.44 × 0.26	16	外傾	平坦	人為		SK251→本跡
253	B 4 d5	-	円形	0.53 × 0.52	18	外傾	平坦	人為		
254	B 4 d5	N-32°-E	楕円形	0.44 × 0.26	29	外傾	平坦	人為		
256	B 4 d5	N-21°-E	楕円形	0.91 × 0.85	18	外傾	平坦	人為		本跡→SA 2, PG 6
273	B 5 c6	N-57°-W	[長方形]	0.60 × (0.27)	34	外傾	平坦	人為		HG 1→本跡
282	B 4 c7	N-18°-W	楕円形	0.66 × 0.45	53	外傾	平坦	人為		
285	B 4 e8	N-70°-W	不整形円形	0.80 × 0.50	37	外傾	平坦	人為		HG 1→本跡
287	B 4 e8	-	方形	0.53 × 0.53	40	ほぼ直立	平坦	人為		HG 1→本跡
290	B 4 e0	N-33°-W	隅丸長方形	2.70 × 1.14	8	縦斜	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	SK289, HG 1→本跡
291	B 4 e9	-	方形	1.23 × 1.23	16	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	HG 1→本跡→PG 6
292	B 4 e6	N-33°-E	楕円形	1.01 × 0.87	8	外傾	平坦	人為		
293	B 4 d7	-	円形	1.02 × 0.95	24	外傾	平坦	人為		本跡→PG 6
294	B 4 d6	N-10°-E	[楕円形]	0.55 × 0.48	47	外傾	平坦	人為		本跡→PG 6
295	B 4 f7	N-86°-W	楕円形	0.74 × 0.62	34	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢), 土師質土器 (甕)	
296	B 4 d7	N-30°-E	楕円形	0.47 × 0.41	58	直立	平坦	自然		PG 6→本跡
297	B 4 e7	N-44°-W	楕円形	2.00 × 1.39	26	外傾	平坦	人為		本跡→PG 6
298	B 4 e8	N-73°-W	[楕円形]	(1.22) × 0.81	21	外傾	平坦	人為		
299	B 4 e7	-	[円形]	1.00 × (0.75)	17	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	本跡→PG 6
300	B 4 f8	N-47°-E	[楕円形]	(0.60) × 0.70	7	外傾	平坦	人為		
301	B 4 b8	N-36°-W	[楕円形]	(1.41) × (0.22)	35	縦斜	平坦	人為		
303	B 4 g9	N-35°-W	楕円形	1.10 × 0.79	12	外傾	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	
304	B 4 g0	N-15°-W	楕円形	0.52 × 0.45	20	外傾	平坦	人為		
305	B 4 f0	N-67°-W	楕円形	0.43 × 0.32	40	ほぼ直立	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	
306	B 4 f0	N-40°-E	楕円形	0.45 × 0.36	42	ほぼ直立	平坦	人為	縄文土器 (深鉢)	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模			断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)						
307	B 5g1	N-12°-W	楕円形	0.65 × 0.52	28		外傾	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	
308	B 5g1	N-13°-E	楕円形	0.60 × 0.46	50		外傾	平坦	人為		
309	B 5g1	N-7°-E	楕円形	0.43 × 0.32	18		外傾	平坦	人為		
310	B 4f0	N-6°-W	楕円形	0.50 × 0.41	38		外傾	平坦	人為		
317	B 4e9	N-53°-W	楕円形	0.99 × 0.73	13		縦斜	平坦	人為	縄文土器(深鉢)	
319	B 4d5	-	円形	0.62 × 0.60	27		外傾	平坦	人為		
326	B 4e5	-	円形	0.83 × 0.78	18		縦斜	平坦	人為		
327	B 4a4	N-41°-W	楕円形	1.73 × 1.09	22		縦斜	平坦	人為		
328	A 4j3	N-80°-W	[楕円形]	0.74 × (0.54)	19		外傾	平坦	人為		

(4) 溝跡

今回の調査で、性格や時期が不明な溝跡3条が確認されている。これらの溝については、規模と形状等について、平面図を全体図(付図)に掲載し、実測図(第36図)と土層解説、一覧表を下記に掲載する。

第27号溝跡土層解説

1 黒色 シルトブロック少量、灰褐色粘土ブロック微量

第29・30号溝跡土層解説

1 黒色 シルト粒子少量



第36図 その他の溝跡実測図

表8 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ(cm)					
27	B 5d5-B 5d6	N-40°-E	直線	(3.36)	0.32-0.65	0.19-0.25	2-8	U字状	縦斜	人為		HG 1→本跡
29	B 5d3-B 5d3	N-65°-W	直線	(4.88)	0.30-0.36	0.10-0.19	3-9	U字状	縦斜	自然		HG 1→本跡
30	B 5d3	N-65°-W	直線	2.62	0.23-0.30	0.11-0.20	4-7	U字状	縦斜	自然		HG 1→本跡

(5) 柱穴列

第1号柱穴列 (第37図)

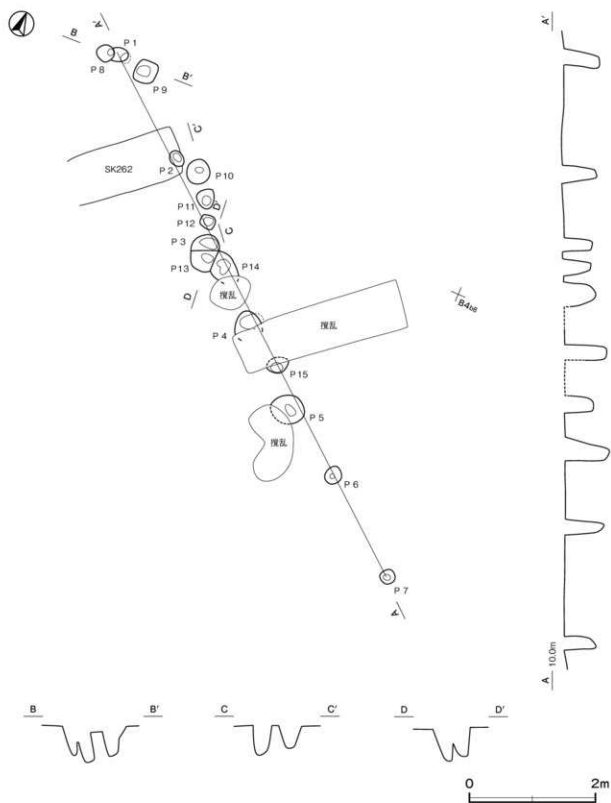
位置 調査区西部から中央部のB 4 a6～B 4 c8区、標高9.9mほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。第262号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 B 4 a6区から南東方向(N-50°-W)へ直線的に並ぶ柱穴15か所を確認した。P 1～P 7までの長さは9.30mで、柱間寸法は1.2m(4尺)～1.8m(6尺)である。柱筋はほぼ揃っている。P 1～P 7の間に位置する。P 8～P 15は列上の周辺に位置するため、建て替えを想定して第1号柱穴列に含めた。

柱穴 平面形は円形もしくは楕円形で、長径23～49cm、短径20～40cmである。深さは38～70cmである。

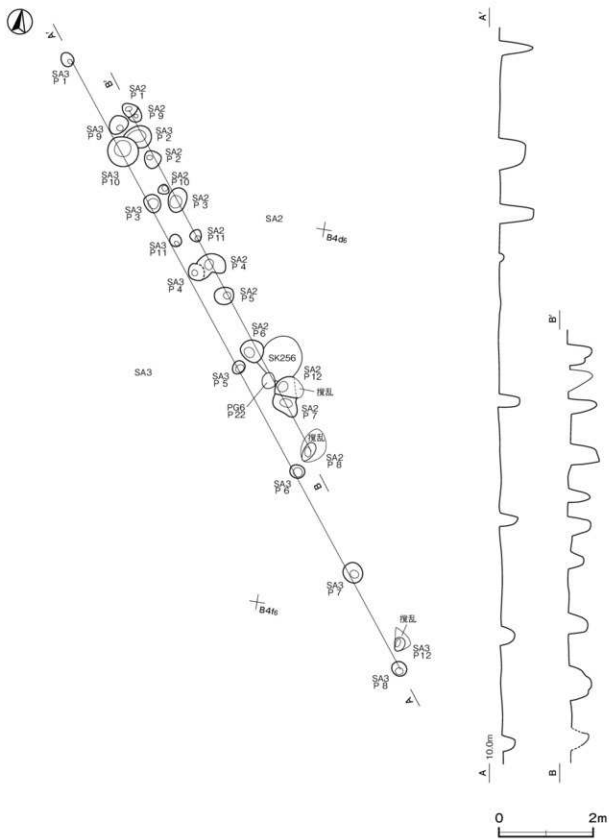
所見 遺物は出土していないため、時期は不明である。



第37図 第1号柱穴実測図

第2号柱穴 (第38図)

位置 調査区西部のB 4 c4 ~ B 4 e6区、標高9.9 mほどの低台地平坦部に位置している。



第 38 图 第 2・3 号柱穴列実測図

重複関係 第256号土坑を掘り込んでいる。また、第3号柱穴列及び第6号ピット群P22も重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 B4c4区から南東方向(N-40°-W)へ直線的に並ぶ柱穴12か所を確認した。P1～P8までの長さは8.20mで、柱間寸法は0.8m(2.6尺)～1.5m(5尺)である。柱筋はほぼ揃っている。P1～P8の間に位置しているP9～P12は列上に位置しているため、建て替えの可能性を想定して、第2号柱穴列に含めた。

柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径21～52cm、短径21～44cmである。深さは32～60cmである。

遺物出土状況 陶器2点(不明)が出土している。いずれも細片のため、図示できない。

所見 遺物が細片で伴うものか不明であるため、時期は不明である。本跡と第3・4号柱穴列は、近接しており、建て替えられた可能性がある。

第3号柱穴列(第38図)

位置 調査区西部のB4c4～B4f6区、標高99mほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号柱穴列と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 B4c4区から南東方向(N-38°-W)へ直線的に並ぶ柱穴12か所を確認した。P1～P8までの長さは14.60mで、柱間寸法は1.5m(5尺)～2.5m(8.3尺)である。柱筋はほぼ揃っている。P1～P8の間に位置しているP9～P12は列上に位置しているため、建て替えの可能性を想定して、第3号柱穴列に含めた。

柱穴 柱穴の平面形は円形もしくは楕円形で、長径27～67cm、短径22～63cmである。深さは20～70cmである。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。本跡と第2・4号柱穴列は、近接しており、建て替えられた可能性がある。

第4号柱穴列(第39図)

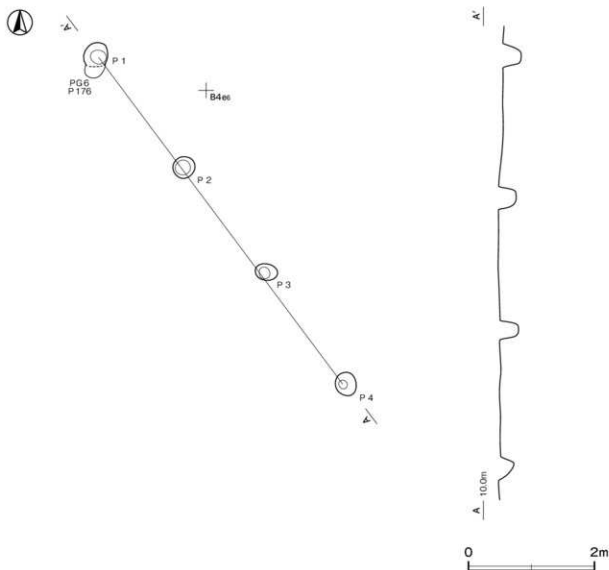
位置 調査区西部のB4d5～B4f6区、標高99mほどの低台地平坦部に位置している。

重複関係 P1が第6号ピット群P176を掘り込んでいる。

規模と形状 B4d5区から南東方向(N-37°-W)へ直線的に並ぶ柱穴4か所を確認した。P1～P4までの長さは6.45mで、柱間寸法は2.1m(7尺)である。柱筋は揃っている。

柱穴 柱穴の平面形は円形もしくは楕円形で、長径26～37cm、短径27～38cmである。深さは23～31cmである。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。本跡と第2・3号柱穴列は近接しており、建て替えられた可能性がある。しかし、第2・3号柱穴列と比べ、柱穴の平面形や深さ、柱間寸法が揃っており、西側の調査区域外に延びる掘立柱建物跡の可能性もある。



第39図 第4号柱穴列実測図

表6 その他の柱穴一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱 穴				主な出土遺物	備 考
					柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)		
1	B 4.96~ B 4.48	N-50°-W	9.30	1.2-1.8	15	円形・楕円形	23-49	20-40	38-70	HG 1→本跡 SK262と併注不明
2	B 4.44~ B 4.46	N-40°-W	8.20	0.8-1.5	12	円形・楕円形	21-52	21-44	32-60	陶器 (不明)
3	B 4.04~ B 4.16	N-38°-W	14.60	1.5-2.5	12	円形・楕円形	27-67	22-63	20-70	SC256→本跡 SA 3・ PG 6と併注不明
4	B 4.45~ B 4.16	N-37°-W	6.45	2.1	4	円形・楕円形	35-37	27-38	23-31	SA 2と併注不明 PG 6→本跡

(6) ビット群

今回の調査で、ビット群1か所を確認した。調査区全城南北 28 m、東西 47 m の範囲の中に広がり、154 個のビットが確認された。平面形は円形もしくは楕円形を基本としている。配置状況から建物跡は想定できない。出土した遺物は、いずれも細片で、遺物から時期を判断することはできない。全体の配置図は、全体図 (付図) に掲載し、ビットの計測表のみを提示する。

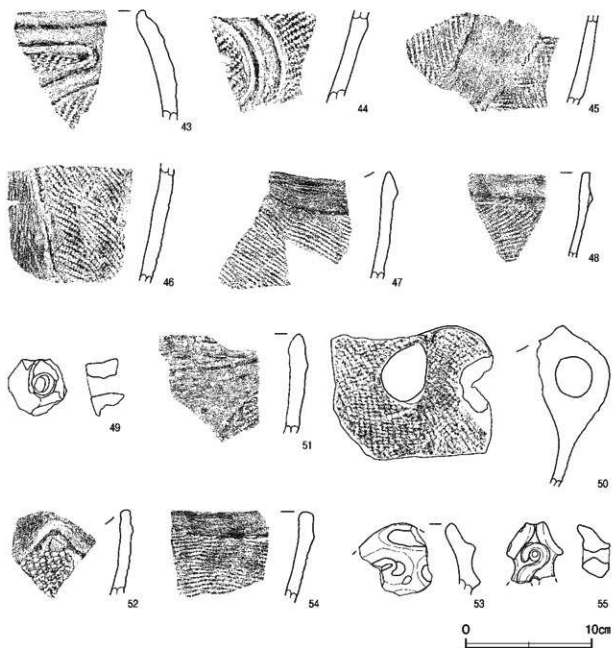
表9 第6号ビット群一覧表

ビット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸(注)	短軸(注)	深さ				長軸(注)	短軸(注)	深さ				長軸(注)	短軸(注)	深さ
2	B 3a3	円形	31	29	28	60	B 4e7	楕円形	49	22	30	123	B 4f6	円形	30	29	16
3	B 4a4	楕円形	30	27	16	61	B 4e7	楕円形	31	26	33	125	B 4f6	楕円形	33	29	25
6	B 4b4	円形	40	39	30	62	B 4f7	楕円形	25	21	36	126	B 4e7	楕円形	26	22	32
7	B 4a5	楕円形	38	31	26	63	B 4f7	円形	33	33	20	127	B 4e7	楕円形	24	20	38
8	B 4b5	楕円形	35	26	29	64	B 4f7	楕円形	57	45	20	128	B 4e8	楕円形	43	25	45
9	B 4d7	楕円形	32	28	29	65	B 4f8	楕円形	40	36	34	129	B 4e7	楕円形	45	35	37
10	B 4d7	楕円形	37	30	20	66	B 4g8	円形	28	26	35	130	B 4e7	楕円形	42	33	40
11	B 4d7	円形	29	29	23	67	B 4g8	楕円形	37	33	29	131	B 4e7	楕円形	34	26	45
16	B 4d5	円形	38	36	33	68	B 4d9	円形	31	31	32	132	B 4e7	[円形]	30	(27)	42
20	B 4c5	楕円形	37	33	41	69	B 4e9	楕円形	44	35	29	133	B 4e7	楕円形	54	35	45
21	B 4d7	楕円形	28	24	25	70	B 4e9	楕円形	36	31	34	134	B 4e7	楕円形	43	40	42
22	B 4d5	楕円形	33	27	20	71	B 4e9	楕円形	45	34	38	135	B 4e7	円形	29	28	37
23	B 4a7	楕円形	33	28	41	72	B 4d9	楕円形	40	33	50	136	B 4f6	円形	20	20	25
24	B 4a7	円形	37	34	30	73	B 4b9	楕円形	45	41	30	137	B 4d6	楕円形	31	28	20
25	B 4a7	楕円形	40	18	25	74	B 4d9	楕円形	33	30	45	138	B 4g7	楕円形	26	23	25
26	B 4a7	楕円形	31	24	22	75	B 4d9	円形	25	25	24	139	B 4g7	楕円形	29	20	32
27	B 4a7	楕円形	45	22	33	76	B 4d8	楕円形	31	23	32	140	B 4g7	円形	30	28	20
28	B 4a7	楕円形	47	23	40	77	B 4e9	楕円形	28	25	47	141	B 4g7	不定形	46	22	30
29	B 4a7	楕円形	38	30	43	78	B 4d0	円形	31	29	47	142	B 4g7	楕円形	27	23	30
30	B 4a7	楕円形	48	41	34	79	B 4d0	円形	40	35	48	143	B 4g7	楕円形	33	27	26
31	B 4a7	楕円形	39	28	36	80	B 4d9	楕円形	27	23	40	144	B 4g7	楕円形	35	23	35
32	B 4a7	楕円形	35	30	32	81	B 4b8	楕円形	31	26	38	145	B 4f8	円形	45	44	48
33	B 4a8	楕円形	47	28	32	82	B 5b2	円形	14	14	21	146	B 4f8	楕円形	34	24	45
34	B 4b8	楕円形	34	27	44	83	B 5b2	楕円形	31	26	25	147	B 4f8	円形	37	35	48
36	B 4c8	楕円形	35	28	42	87	B 5c3	楕円形	33	27	38	148	B 4f8	円形	27	25	39
37	B 4c8	楕円形	33	23	47	91	B 5b2	円形	30	28	35	149	B 4f8	楕円形	36	26	26
38	B 4c8	不要楕円形	43	36	41	94	B 5c3	楕円形	26	21	21	150	B 4f8	楕円形	30	21	30
39	B 4c8	楕円形	29	24	46	98	B 4d9	楕円形	25	20	40	151	B 4f8	楕円形	38	34	44
40	B 4c8	不要楕円形	36	24	40	99	B 4d9	円形	25	25	24	152	B 4f8	楕円形	35	21	35
41	B 4c9	楕円形	38	28	37	100	B 4d8	楕円形	30	27	22	153	B 4b8	楕円形	42	37	25
42	B 4c9	円形	21	21	35	101	B 4c8	楕円形	26	21	25	154	B 4g0	楕円形	38	34	22
43	B 4d8	擴大長方形	46	28	37	103	B 4c8	楕円形	36	29	33	155	B 5f1	楕円形	37	30	49
44	B 4c5	不要楕円形	32	28	21	104	B 4c7	楕円形	22	18	34	156	B 5c5	楕円形	33	29	20
45	B 4b6	楕円形	58	25	34	105	B 4b7	(円形)	(26)	(25)	31	157	B 5c5	楕円形	37	31	18
46	B 4c5	楕円形	36	24	53	106	B 4b7	[楕円形]	28	(14)	19	158	B 5c4	円形	25	22	12
47	B 4c6	円形	48	45	40	107	B 4a6	円形	25	24	34	159	B 5c5	円形	22	21	10
48	B 4c6	不要楕円形	37	32	14	108	B 4a6	楕円形	33	24	35	160	B 5d3	楕円形	38	29	25
49	B 4c6	[楕円形]	[51]	43	28	110	B 4d7	楕円形	29	24	48	161	B 5d3	楕円形	37	22	15
50	B 4c6	[楕円形]	50	[39]	28	111	B 4e7	楕円形	33	28	35	162	B 5d4	楕円形	37	29	23
51	B 4d6	楕円形	57	38	28	112	B 4e7	円形	31	31	37	164	B 5c2	楕円形	36	30	34
52	B 4c6	[円形]	(38)	37	34	113	B 4e7	楕円形	28	20	24	165	B 5c1	楕円形	53	27	18
53	B 4d7	楕円形	35	30	43	114	B 4e6	楕円形	30	23	39	166	B 4e6	楕円形	34	26	27
54	B 4d7	楕円形	45	38	31	115	B 4e6	不定形	30	28	37	167	B 4e6	円形	21	20	28
55	B 4d7	[円形]	39	37	35	116	B 4e6	楕円形	40	36	35	168	B 4e6	楕円形	34	26	31
56	B 4d6	楕円形	53	36	33	118	B 4e6	楕円形	36	28	25	169	B 5c3	楕円形	30	26	58
57	B 4d6	楕円形	46	34	28	120	B 4f7	楕円形	50	37	35	170	B 5e2	楕円形	40	28	12
58	B 4e6	楕円形	41	37	45	121	B 4f7	楕円形	43	35	24	171	B 5e2	不定形	43	33	40
59	B 4e6	不定形	68	33	31	122	B 4f6	楕円形	25	21	25	172	B 4f0	円形	41	39	38

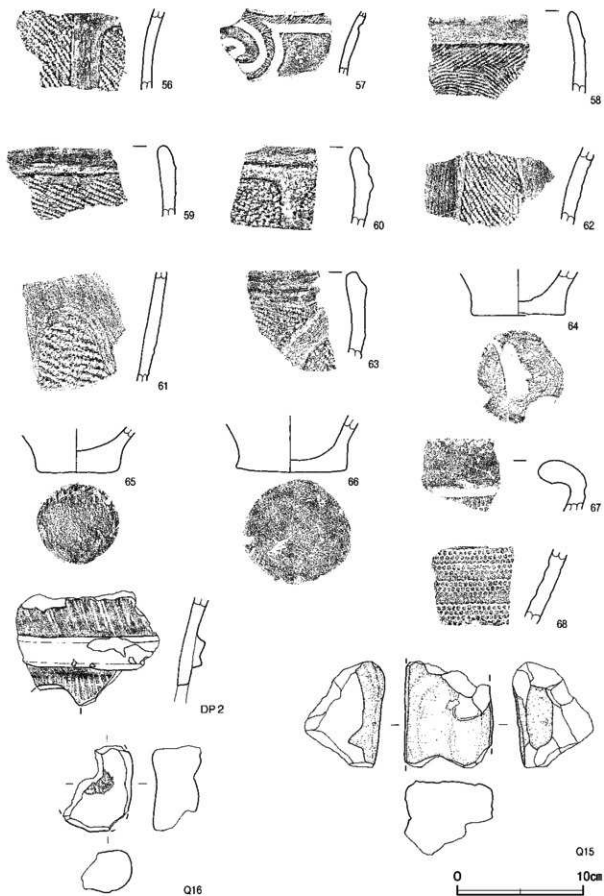
ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長軸(径)	短軸(径)	深さ				長軸(径)	短軸(径)	深さ				長軸(径)	短軸(径)	深さ
173	B 5f1	楕円形	33	27	46	177	B 4d8	楕円形	37	30	40	181	B 4e8	楕円形	40	24	27
174	B 5f1	楕円形	31	28	30	178	B 4d7	楕円形	34	28	27	182	B 4e6	円形	31	29	37
175	B 4e7	楕円形	40	36	43	179	B 4f8	不整楕円形	55	44	78						
176	B 4d5	[楕円形]	30	[20]	20	180	B 4e7	円形	39	39	50						

(7) 遺構外出土遺物

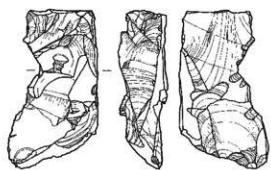
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物については、実測図（第 40～42 図）と観察表を掲載する。



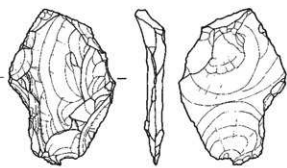
第 40 図 遺構外出土遺物実測図（1）



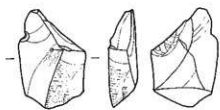
第41图 遺構外出土遺物実測図(2)



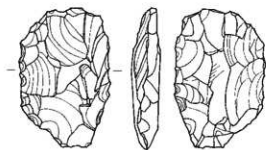
Q9



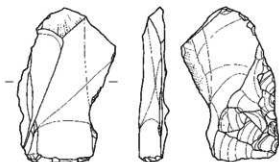
Q11



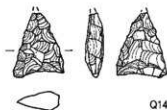
Q10



Q12



Q13



Q14



第42图 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表 (第 40 ~ 42 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
43	縄文土器	深鉢	-	(88)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	単線縄文 L.R. 口縁部隆起による無文帯	SD25 覆土中	中期未定 PL. 5
44	縄文土器	深鉢	-	(73)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	辻縷を伴う隆起による内弧文→単線縄文 L.R. を先填→内弧文内側面	表土	中期未定
45	縄文土器	深鉢	-	(72)	-	長石・石英・赤色雲母	橙	普通	隆起による弧状文→単線縄文 L.R. を先填→弧状文内を削落	SD26 覆土中	中期未定
46	縄文土器	深鉢	-	(95)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	隆起による懸垂文→単線縄文 L.R. を先填→懸垂文内を削落	SD26 覆土中	中期未定
47	縄文土器	深鉢	-	(86)	-	長石・石英・赤色雲母	橙	普通	隆起による区画→単線縄文 L.R. を先填→口縁部隆起による無文帯 内面ナデ	SD26 覆土中	中期未定 PL. 5
48	縄文土器	深鉢	-	(68)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	隆起による区画→単線縄文 L.R. を先填→口縁部隆起による無文帯 内面ナデ	SD26 覆土中	中期未定 PL. 5
49	縄文土器	口土器	-	(45)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい赤黄	普通	注口部 隆起貼付 割縁痕	SD26 覆土中	中期未定 子慮部埋没
50	縄文土器	深鉢	-	(128)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	把手部貼付→単線縄文 L.R. →把手部ナデによる割縁 内面ナデ	SD26 覆土中	中期未定
51	縄文土器	深鉢	-	(79)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい赤黄	普通	隆起による区画→単線縄文 L.R. を先填→隆起内を削落 口縁部隆起による無文帯	表土	中期未定 PL. 5
52	縄文土器	深鉢	-	(68)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	単線縄文 L.R. →口縁部隆起による無文帯	表土	中期未定 PL. 5
53	縄文土器	深鉢	-	(58)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい赤黄	普通	隆起間を太い辻縷による渦巻文 内面ナデ	表土	中期未定
54	縄文土器	深鉢	-	(73)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	単線縄文 L.R. →口縁部隆起による無文帯	表土	中期未定 PL. 5
55	縄文土器	把手	-	(42)	-	長石・石英・赤色雲母	明赤褐	普通	隆起による渦巻文を前後に貼付け 中央部穿孔 正面・側面丁寧な磨き	表土	後期初頭
56	縄文土器	深鉢	-	(64)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	隆起による懸垂文→単線縄文 L.R. を先填→懸垂文内を削落 内面ナデ	表土	中期未定
57	縄文土器	深鉢	-	(52)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	二本1単位の違い辻縷 単線 L.R. を先填部と磨きによる無文帯の境目なし 渦巻文	表土	後期初頭 和志寺遺跡 PL. 5
58	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英・赤色雲母	明赤褐	普通	単線縄文 L.R. を先填 口縁部隆起による区画 口縁部無文 内面磨きのケスレ	表土	中期未定 PL. 5
59	縄文土器	深鉢	-	(56)	-	長石・石英・赤色雲母	褐	普通	単線縄文 L.R. を先填 口縁部隆起による区画 口縁部無文 内面磨きのケスレ	表土	中期未定
60	縄文土器	深鉢	-	(63)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	隆起による十字状文一種単線縄文 L.R. を先填→十字状文内側面 口縁部隆起による無文帯	表土	中期未定
61	縄文土器	深鉢	-	(87)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	単線縄文 L.R. →洗い辻縷による逆U字文→逆U字文内を削落 内面磨き	表土	中期未定
62	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	単線縄文 L.R. →隆起による懸垂文→懸垂文内を削落 内面磨き	表土	中期未定
63	縄文土器	深鉢	-	(68)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	隆起による内弧文→単線縄文 L.R. を先填→内弧文内を削落 口縁部隆起による区画 ナデによる無文 内面ナデ	表土	中期未定
64	縄文土器	深鉢	-	(36)	74	長石・石英・赤色雲母	明赤褐	普通	底面ナデ	表土	
65	縄文土器	深鉢	-	(36)	63	長石・石英・赤色雲母	にぶい橙	普通	底面側り残ナデ 側面側り	表土	
66	縄文土器	深鉢	-	(45)	85	長石・石英・赤色雲母	にぶい赤黄	普通	底面側り残ナデ 工具による任意直り 内面側りナデ	表土	
67	瓦質土器	火鉢	-	(41)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい赤黄	普通	外面洗い辻縷による口縁部区画 回転印刷文 内面ヘラナデ	表土	67と同一個体 注詳
68	瓦質土器	火鉢	-	(60)	-	長石・石英・赤色雲母	にぶい赤黄	普通	外面回転印刷文 内面ヘラナデ	表土	67と同一個体 注詳

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 2	円筒埴輪	(85)	(113)	1.1	(3399)	長石・石英・赤色パミス	橙	外面凸部貼付 縦位のハケ目 凸部上下ナデナデ 透孔あり 内面ヘラナデ	SD26 覆土中	PL. 6

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	色 調	特 徴	出土位置	備 考
Q 9	石核	6.3	3.5	1.9	37.4	黒曜石		各面複数割縁痕 残核	SD26 覆土中	
Q 10	割片	3.9	2.7	1.1	10.22	チャート		打面は単割縁面 背面側方向の割縁痕	SD26 覆土中	
Q 11	割片	6.2	4.2	1.2	17.34	チャート		打面は単割縁面 背面複数方向の割縁痕	SD26 覆土中	
Q 12	スレイバー	5.6	3.7	1.1	23.96	チャート		片面縁部刃部加工	SD26 覆土中	
Q 13	割片	6.2	3.9	1.3	21.34	チャート		打面は単割縁面	表土	
Q 14	石核	(1.7)	1.3	0.5	(0.71)	黒曜石		無基平片状 先端部破損 片面押圧割縁 背面片方のみ押圧割縁 未成品カ	表土	
Q 15	石皿	(85)	(70)	(59)	(3701)	角閃石(クワイクト)		使用面わずかに凹む 使用痕有	SE22 覆土中	
Q 16	凹石	(68)	(56)	3.9	(30788)	砂岩		凹み箇所 1か所	表土	

第4節 ま と め

1 はじめに

平成27年度の調査（以下「今回調査区」とする）では、掘立柱建物跡3棟（不明）、井戸跡1基（不明）、火葬施設1基（中世）、土坑76基（縄文時代8・中世30・近世1・不明37）、溝跡7条（近世4・不明3）、柱穴列4条（不明）、ピット群1か所（不明）、遺物包含層1か所（縄文時代）を確認した。確認した遺構は、縄文時代の集落跡や中世の墓域の一部と考えられる。『当財団調査報告』第352集では、平成21年度調査区（以下「東側調査区」とする）及び平成22年度調査区（以下「西側調査区」とする）から、竪穴建物跡2棟（縄文時代）、井戸跡21基（中世12・不明9）、火葬施設4基（中世）、方形竪穴遺構8基（中世）、土坑224基（縄文時代2・中世47・近世55・不明120）、堀跡1条（近世）、溝跡20条（不明）、ピット群5か所（不明）が報告されている。ここでは、時代順に前回調査と併せながら、各時代の遺構と出土遺物について概観し、若干の考察を加えることでまとめたい。

2 遺跡の様相

(1) 縄文時代

当時代の遺構として、遺物包含層1か所とそれを掘り込む土坑8基を確認した。遺物包含層からは加曾利EⅣ式の土器が出土していることから、中期末葉が主な形成時期と考えられ、土坑はそれ以降に位置付けられる。前回の調査では、東側調査区から加曾利EⅡ～EⅢ式期の竪穴建物跡2棟、土坑2基を確認している。

当遺跡の周辺は、赤堀川開削以来の洪水や河川改修、現代の土地改良事業によって、現状では極めて平坦な地形を呈しているが、旧地形は北西から南東方向に延びながら傾斜する台地に、現在の利根川沿いの北側の低地から谷が樹枝状に別れながら南西に入り込んでいたと考えられる¹⁾。当遺跡付近にも谷が存在し、その斜面に遺物を含んだ土が堆積することで、今回確認された遺物包含層が形成されたと考えられる。

集落の変遷や構成については確認された遺構数が少ないため不明であるが、集落の存続は加曾利EⅡ～EⅣ式期にかけてと考えられる。また、今回も前回と同様に縄文時代以外の遺構の覆土や表土中からも多くの縄文土器が出土しており、周辺に遺構が展開するものと思われる。

中期の遺跡は、町域の北部に多く立地していることがこれまで指摘されている²⁾。勝坂式～加曾利I式期の小手指貝塚、加曾利EⅡ～Ⅳ式期の土坑5基が調査された宿北遺跡、加曾利EⅢ式期の集落跡が調査された上原遺跡などとともに、当遺跡も中期後葉から末葉にかけて、人々がこの地を生活の場所にしてきたことが確認された。

出土した土器は、大部分が中期後葉から末葉に位置づけられる加曾利EⅢ～EⅣ式であり、ついで後期初頭の称名寺式が少量出土し、前期の黒浜式、後期の加曾利B～曾谷式がわずかに出土している³⁾。

第281号土坑出土のP1は4単位の波状口縁を持ち、波頭部が2か所上部に摘まみ上げられている。文様構成は、沈線に対向U字文が互いに接してH字文に変化した文様を施している。第313号土坑のP4も同様な文様構成が見られる。近隣では、栃木県小山市寺野東遺跡や埼玉県松伏町浅間東遺跡の出土土器に類似している。近年、中期末葉から後期初頭の土器編年については調査研究が進められ、称名寺式に併行する加曾利E系の土器の存在が明らかになっている。事例の増加とともに、加曾利E式の影響がみられる土器については、加曾利EⅤ式を設定して後期初頭に位置づけることも議論されている⁴⁾。この研究成果

も併せると、称名寺式期の土器や千歳窪類型の注口土器が出土していることから集落の存続がさらに後期まで延びる可能性も存在している。

(2) 古墳時代

当時代の遺構は確認できなかったが、近世の第28号溝跡から円筒埴輪が1点出土している。当遺跡の西側に位置する小手指・川妻地区は、町域内で古墳が集中している地域である。当遺跡の南西約500mに存在する伊勢塚古墳は、前方後円墳と言われており、円筒埴輪が採集されている。周辺には四十八塚と呼ばれる古墳群が存在していたと伝えられている⁶⁾。今回出土の埴輪は摩滅が少なく、近隣からの流れ込みと考えられ、当遺跡の周辺にも、埋没したり削平されたりした古墳が存在している可能性がある。

(3) 中世

当時代の遺構は、火葬施設1基、土坑30基を確認した。

土坑は、全容が不明なものも存在するが、長軸1.80m前後、短軸0.80m前後の長方形の土坑を25基確認することができた。覆土は、シルトブロックを含んだ黒色または黒褐色を呈し、人為的に埋め戻されている。土坑からの出土遺物は極めて少なく、第283号土坑から陶器の鉚皿が出土しているほかは、3基の土坑から土師質土器の小皿や甕が確認されたのみである。骨片や六道銭とみられる銭貨等は確認できなかったが、前回調査や近隣の調査事例から墓坑と考えられる。第283号土坑出土の鉚皿が15世紀後半と考えられる以外は、詳細な時期は不明である。主軸方向が南北軸と東西軸に分けることができるが、形状が長方形に限られているために、ほぼ同一時期に営まれたと考えられる⁶⁾。

齊藤弘氏は、北関東における中世墓地について「14世紀頃に庶民層も造墓が始まり、15世紀～16世紀には一部で集団墓地が形成される。また、中世墓地には火葬施設や井戸、及び地下式坑が伴う事例が多い。」と述べている⁷⁾。今回調査区では、火葬施設1基が確認されたのみで、地下式坑や井戸跡は確認されていないが、遺物がないために時期不明とした井戸跡が伴う可能性や、調査区外に展開していることも想定される。

西側調査区で、当期の井戸跡12基、火葬施設4基、方形堅穴遺構8基、土坑47基を確認し、主に墓域としての土地利用が想定されている。遺構から少量であるが、常滑6a～6b型式の甕や片口鉢が出土しており、13世紀後半を中心とした時期と報告されている。今回調査区と時期差が見られ、関連については再度検討が必要であるが、墓域として断続的にこの地域が利用されていた可能性が高い。

また、前回報告では、当期の土地利用について墓域のみならず、方形堅穴遺構の性格について、工房や倉庫の可能性を想定しているが、今回の調査ではそれを補強するような遺構は確認されなかった。

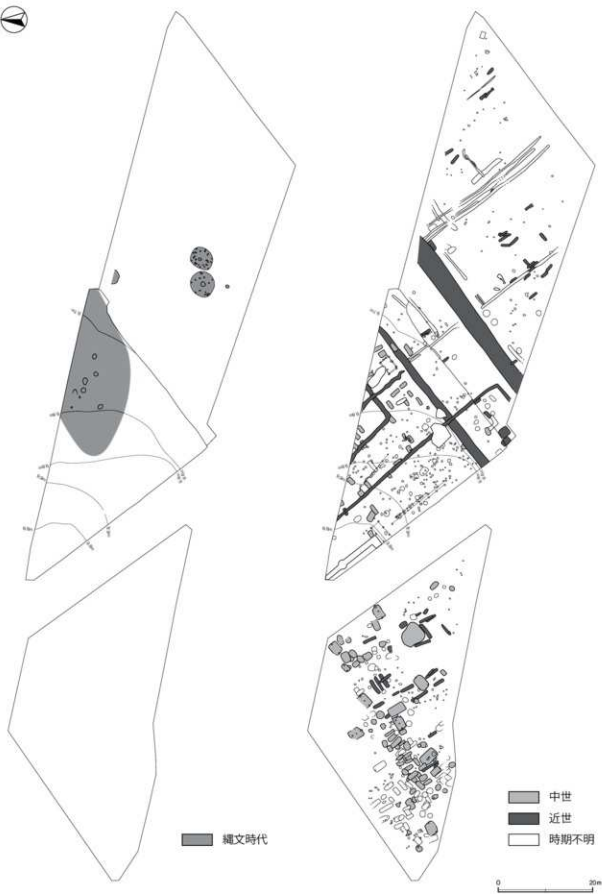
(3) 近世

当時代の遺構は、土坑1基、溝跡4条を確認した。

遺構の新旧関係から、第25・28号溝跡、第1・26号溝跡、第260号土坑の3時期に分けることができる。最も古い時期の第28号溝跡からは、16世紀～17世紀にかけての陶器が出土しており、その時期に機能していたと考えられる。その他の遺構は、それ以降の時期と考えられる。

東側調査区では、土坑30基、堀跡1条が、西側調査区では土坑25基が確認されている。また、東側調査区で、今回確認した溝跡と同一方向や直交する向きに延びている時期不明の溝跡も当期に該当する可能性がある。

当遺跡が存在する両新田地区は、元和7年(1621)、赤堀川の開削により、釈迦村・前林村が北側の本村と南側の飛地に分断されたことにより成立した。飛地へは、船で渡り耕作していたが、江戸時代後半に



第43図 秋瀬新田遺跡遺構配置図

なると集落が成立したと見られている⁸⁾。明治18年作成の迅速測図には、北西と南西側に集落が存在し、今回の調査区周辺は畑と記載されている。確認された溝跡が地割を目的としていることや、遺物の出土量も極めて少ないことと併せると、近世においても同様に耕作地として利用されていたと考えられる。

一方で、最も新しい時期の第260号土坑は、墓坑の可能性がある。周辺には同期の遺構は見られず、継続的に墓域としては利用されていないと考えられる。単独で立地していることから、中世における共同化した墓地様相とは異なっている⁹⁾。

3 まとめ

以上、当遺跡の遺構と出土遺物について、前回の調査結果も併せて、時代別に概観してきた。

確認された遺構は少ないが、縄文時代の中期の土器が調査区域から広く出土しており、調査区周辺に中期後葉から末葉にかけて集落が営まれていたと考えられる。遺構は確認できなかったが、前期や後期の土器も出土しており、周辺での土地利用が想定される。中世に入ると、主に墓域として土地利用されている。近世には、赤堀川開削がこの地域に大きな影響を与え、洪水対策も兼ねた堀が作られ、耕作地として主に利用されていたと考えられる。

当遺跡の調査は、堤防拡張に伴い遺跡の一部に過ぎない。調査区域外に伸びる遺構もあり、遺跡の全容が明らかになった訳ではない。今後も、近隣地域の調査の積み重ねや他遺跡の調査事例との比較により分析を進める必要がある。今回の調査成果が当地域における歴史解明に繋がることを期待したい。

註

- 1) 五霞町史編さん委員会『町史 五霞の生活史 水と五霞 五霞町 2010年3月
- 2) 金井忠夫「永河性海面変化と五霞村の貝塚」[埼玉研究] 第12号 埼玉県地域研究会 1966年3月
- 3) 大川清・鈴木公雄・工業普通編『日本土器事典』雄山閣 1996年12月
- 4) 横浜市博物館編『称名寺貝塚と称名寺式土器』公益財団法人三菱財団平成27年度人文科学研究助成；横浜市歴史博物館 企画展「称名寺貝塚 関連シンポジウム」横浜市ふるさと歴史財団 2016年3月
- 5) 大谷敏「飯塚塚古墳採掘報告」[立正考古] 第28号 立正大学考古学研究会 1989年3月
- 6) 宿北遺跡で確認された室町時代の墓坑と見られる土坑と類似している。時期は16世紀前半と報告されている。近江屋成隆「宿北遺跡 宿東遺跡 寺山遺跡 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第383集 2014年3月
- 7) 齊藤弘「中世後期の墓地-下野を中心に」[栃木県考古学会誌] 第18集 栃木県考古学協会 1996年11月
- 8) 五霞町史編さん委員会『町史 五霞の生活史 地誌 五霞町 2013年3月
- 9) 瀬沼遺跡で確認された近世の墓坑の状況と類似している。本橋弘巳「同所新田遺跡2 瀬沼遺跡2 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第312集 2009年3月

参考文献

- ・坂本勝彦「釈迦新田遺跡 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第352集 2012年3月
- ・齋藤弘道「茨城県の縄文土器」『茨城県立歴史館叢書9』茨城県立歴史館 2006年3月
- ・谷藤保彦・岡根謙二編『第28回縄文セミナー 縄文後期注入口土器の諸様相』縄文セミナーの会 2015年2月
- ・金井忠夫「利根川の歴史」日本図書刊行会 1997年2月
- ・橋本達郎・荒川善夫編『東国の中世遺跡-遺跡と遺物の様相-』随想舎 2009年2月
- ・石守英「所謂中世土坑墓について：その基本的な形態についての覚書」[群馬の考古学]群馬県埋蔵文化財調査事業団1988年11月
- ・愛知県史編纂委員会『愛知県史 別編 商業2 中世・近世 瀬戸系』愛知県 2007年3月
- ・愛知県史編纂委員会『愛知県史 別編 商業2 中世・近世 常滑系』愛知県 2012年3月
- ・河角まり「内耳鍋から焙烙へ-近世江戸在地系焙烙の成立-」『考古学研究』第42巻第4号(通巻168号)1996年3月
- ・成島一也「石畑遺跡 12県道改第12-03-261-0-052号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第192集 2002年3月
- ・佐藤一也「新田遺跡 上原遺跡 殿山塚 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第395集 2015年3月

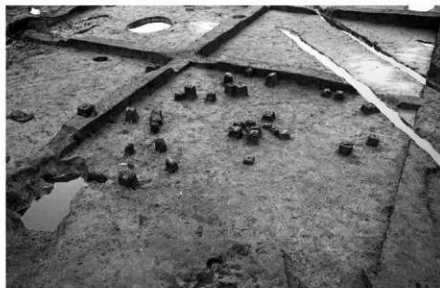
写 真 图 版



調査区全景

第281号土坑
遺物出土状況第313号土坑
遺物出土状況

PL2



第1号遺物包含層
遺物出土状況



第1号遺物包含層
遺物出土状況



第28号溝跡
遺物出土状況

第 28 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況



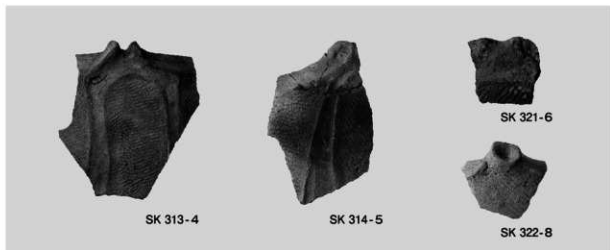
第 28 号 溝 跡



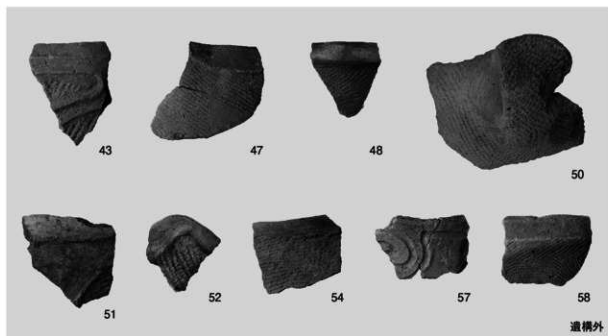
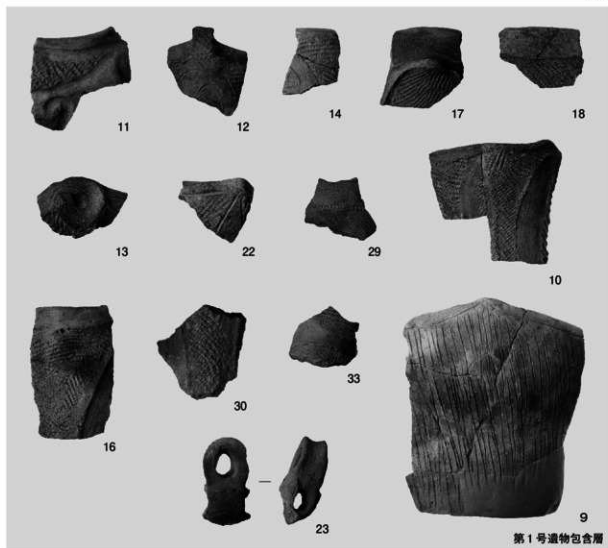
第 22 号 井 戸 跡



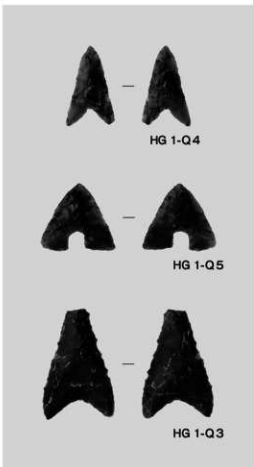
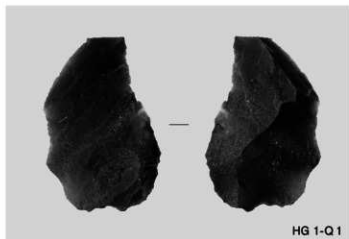
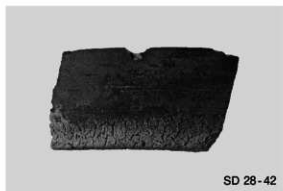
PL4



第281・313・314・321・322号土坑出土土器



第1号遺物包含層・遺構外出土土器



第1号遺物包含層・第283号土坑・第28号溝跡・遺構外出土遺物

抄 録

ふりがな	しゃかしんでんいせき2								
書名	釈迦新田遺跡2								
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書4								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第418集								
著者名	大久保芳紀								
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2017(平成29)年3月15日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
釈迦新田遺跡	茨城県猿島郡五霞 町大字釈迦字地藏 前2411-1番地ほ か	08542 - 028	36度 7分 37秒	140度 44分 36秒	9.6 ~ 10.0 m	20150901 ~ 20151031	1,351 m ²	首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴う事前調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
釈迦新田遺跡	集落跡	縄文	土坑 遺物包含層	8基 1ヶ所	縄文土器(深鉢)、石器(スクレイパー・鏃・磨石・剥片)				
	墓域	中世	火葬施設 土坑	1基 30基	土師質土器(小皿・甕)、陶器(鉋皿)、土製品(羽口)				
	その他	近世	土坑 溝跡	1基 4条	瓦質土器(焙烙)、陶器(皿・天目茶碗・甕・搦鉢・瓶ヶ)石器(砥石)				
		時期不明	掘立柱建物跡 井戸跡 土坑 溝跡 柱穴列 ピット群	3棟 1基 37基 3条 4条 1ヶ所	縄文土器(深鉢・注口土器)、瓦質土器(火鉢)、石器(スクレイパー・鏃・石皿・凹石・石核・剥片)、土製品(円筒埴輪)				
要約	縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。縄文時代の集落跡は、前回調査と併せると中期後葉の加曾利EⅡ～EⅣ時期と見られる。中世は、火葬施設や墓坑と考えられる長方形を呈する土坑が確認でき、墓域として土地利用されている。								

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS6
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CS6
	Scanning	EPSON ET - X980 図面類 RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS6でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第418集

釈迦新田遺跡 2

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書 4

平成29（2017）年 3月15日 印刷

平成29（2017）年 3月17日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

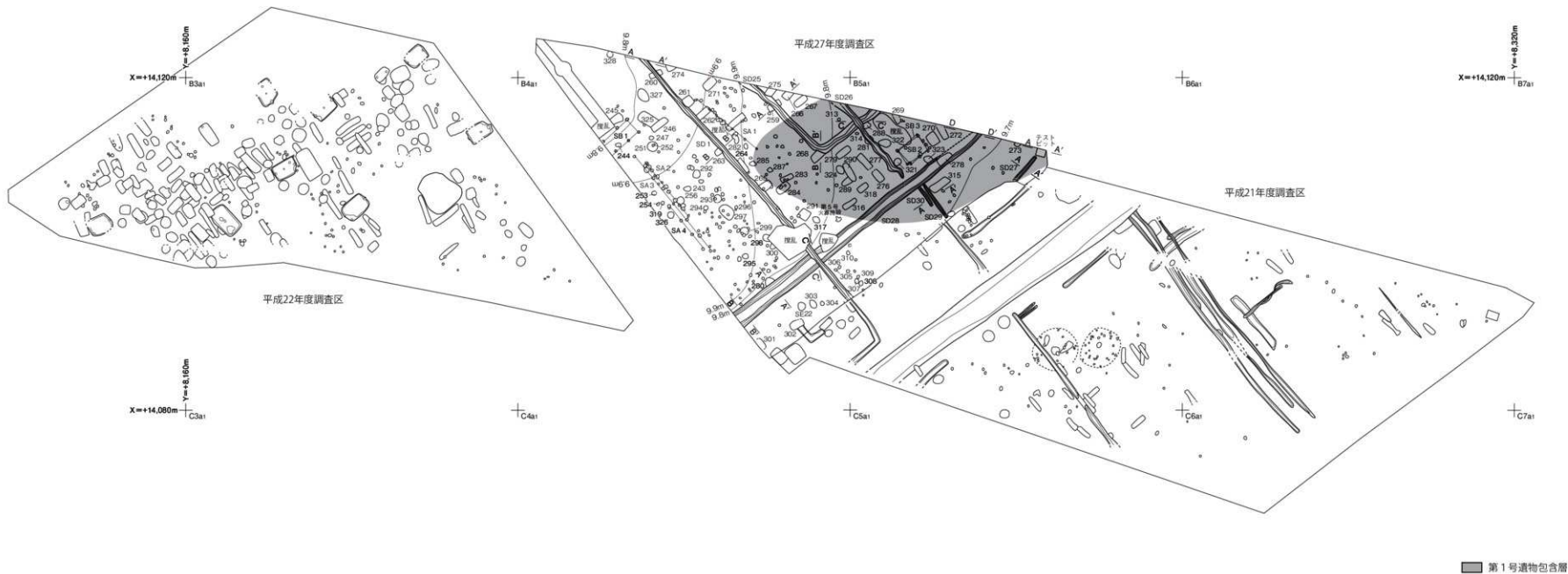
TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 (有)川田プリント

〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53

TEL 029-253-5551



付図 釈迦新田遺跡遺構全体図 (『茨城県教育財団文化財調査報告』第418集)

